

## 実績報告書

届出者	住所	新潟県新潟市中央区女池北1-1-1	氏名	新潟運輸株式会社 代表取締役 山田 博義
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		貨物自動車運送事業を中心とした総合物流企業。 大阪府内では2支店が営業を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	2,268 t-CO <sub>2</sub>	2,157 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	2,268 t-CO <sub>2</sub>	2,180 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	-1.0 %	3.6 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	2.6 %	3.9 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( )

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>集荷・配達スパンの見直しによる輸送の効率化により、基準年度に対して5%の削減率となった。                  ※ 自動車の台数は前年と比べて2台増。                  ※ 自動車の走行料は対前年比率2.12%減。</p>
--

(2) 推進体制

全社的にグリーン経営の認証取得に取り組んでおり、府内2支店も認証取得済み。  
社長を頂点とした環境保全推進体制を継続的に運用していく。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	大阪支店 大阪南港支店	コード (1113) 照明・空調設備 の運転管理	事務所・ホームにおける無人箇所の消灯、及び 冷暖房の稼働節約・適正温度設定を徹底する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	大阪支店 大阪南港支店	コード (2114) 日常点検励行に よる燃費向上	車両を常に良好な状態に保つことで、省燃費化 を図る。特に、タイヤ空気圧やエアエレメン トの点検整備を徹底する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	大阪支店 大阪南港支店	コード (2123) 添乗指導の実施	管理者による添乗指導を実施し、エコドライブ への意識付けを継続的に行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	大阪支店 大阪南港支店	コード (2121) エコタイヤの導 入	可能な範囲でエコタイヤの導入を図り、燃費向 上に努める。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区東心斎橋 1-11-17	氏名	西尾レントオール株式会社 代表取締役 西尾 公志
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		建設機械の賃貸業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	3,009 t-CO <sub>2</sub>	1,430 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,009 t-CO <sub>2</sub>	0 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) 13.6 %	0.8 %	0.8 %	52.5 %
		削減率(原単位ベース) %	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>排出ガスの低減を目指して古い車種を大幅に入れ替え実施。大阪府内の車両の新規導入を進めた結果、今年は大削減ができた。今後も継続してできるだけ環境対策車両導入を検討し進める。</p>
--

(2) 推進体制

当社レンタル業の為、走行距離での抑制はできません。車両の点検等維持管理を確実にし、また、新車購入時は仕様が許す限り、その時点で一番の低排出車を導入していき、排出量の削減に努めます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
	平準化				年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
					年度

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者	住所	大阪市東淀川区相川1-6-2	氏名	西陣染色株式会社 代表取締役 長谷川正彦
特定事業者の主たる業種		11繊維工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に衣類を中心とした各種繊維の糸染色加工を行っています		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	3,076 t-CO <sub>2</sub>	0 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,288 t-CO <sub>2</sub>	0 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-0.7 %	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-0.9 %	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

平成28年3月末にて、工場閉鎖
-----------------

(2) 推進体制

--

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				
	平準化				年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				
					年度

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者		住所		大阪府茨木市岩倉町1番13号		氏名		西日本高速道路株式会社 関西支社 支社長 前 邦彦	
特定事業者の主たる業種				48運輸に附帯するサービス業					
該当する特定事業者の要件				大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者					
				大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者					
				レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者				
事業の概要				高速道路の建設事業、営業中高速道路の維持管理や料金収受等の保全・サービス事業、サービスエリア・パーキングエリア関連事業					

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	
2015 年	4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	3,642 t-CO <sub>2</sub>	4,151 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,172 t-CO <sub>2</sub>	4,730 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ 削減率(排出量ベース)	3.0 %	15.3 %	-14.1 %	-14.0 %
	削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	15.2 %	-13.0 %	-13.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成29年度においても昨年同様、ケルビズをはじめ、照明の間引き、事務用機器(プリンタやパソコン)の省エネモード設定等を推進してきた。温室効果ガスの総排出量が平成26年度の計画時に対し、509t-CO<sub>2</sub>増加(14%増)していることについては、保有自動車台数の増加(ガソリン車+12台、軽油自動車+49台)による燃料使用量の増加及び新名神高速道路の建設に伴う業務が最盛期を迎えたことで労働時間が増加し、空調・照明に要した電力量の増加が主な要因であると考えている。</p>
---

(2) 推進体制

当社では、省エネルギー活動を効果的に推進し、管理体制を整備するとともに、会社社屋におけるエネルギーの管理を適切に実行することを目的とした社内要領を定め、省エネルギーに係る推進責任者を組織ごとに配置し、省エネルギー推進体制を構築することで環境課題について審議を行っている。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全事業所	コード (1113) 空調設備の適切な管理	空調の適切な温度設定、空調時間の短縮、ブラインドを利用し、屋外からの入熱・出熱の抑制を行う。また、点検・清掃を定期的に行う。新設時には高効率空調機を採用する。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	全事業所	コード (1113) 照明設備の適切な管理	照明の不要時消灯、間引き点灯を実施する。また必要に応じてランプ、照明器具を清掃する。新設時には省エネ型照明器具を採用する。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	全事業所	コード (5113) 事務用機器の省エネ	複合機、プリンター、パソコンを節電モードに設定し、パソコンは未使用時には電源をOFFにする。また点検・清掃を定期的に行う。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	車両入替時には、低燃費・低排出型の車両の購入及びリース契約を行う。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブ・アイドリングストップの実施	エコドライブ運転の実施を行い、アイドリングストップの啓蒙活動を実施する。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	全事業所	コード (2114) 法定点検・自主点検の実施	各年度における法定点検及び自主点検による車両の整備・管理を行う。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策

当社は、高速道路を管理する事業を行っていることから、自動車交通に起因するCO2排出量を削減するため、交通渋滞の解消対策や高速道路の盛土やのり面を樹林化に取り組むことで省エネルギーを推進しています。また、事業活動ではオフィスをはじめ、道路施設やサービスエリアの電気使用に伴う温室効果ガスの排出が大きいため、節電や高効率化を図ることで排出抑制に努めています。



# 実績報告書

		大阪府大阪市此花区北港1-3-23		西日本ジェイアールバス株式会社 代表取締役社長 野中 雅志
届出者	住所		氏名	
特定事業者の主たる業種		43道路旅客運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>主に旅客運送事業を行っており、全事業所数は関西地区を中心に全9箇所。うち、大阪府内では3事業所を有する。 バス事業として大阪府内では136台保有し、その他業務用自家用車を4台、軽自動車2台の合計で142台保有している。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	13,894 t-CO <sub>2</sub>	14,973 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	13,894 t-CO <sub>2</sub>	15,075 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	-2.4 %	-11.3 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-2.9 %	-12.0 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>旅客事業に使用する車両の経年および、運行本数の増加により、温室効果ガスの排出量が増加し目標削減率をクリアする事が出来なかったが、29年度には低燃費車・低公害車を積極的に導入したため、若干の改善が見られた。</p>
---

## (2) 推進体制

社内では本社総務課が中心になって平成14年9月より地球環境委員会を設置し、営業所も含め全社一丸となって定期的に会議を開催し、J R西日本グループの一員として地球にやさしい企業を目指している。

## (3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

## 1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社・大阪高速管理所	コード (1122) 空気調和設備の 運用改善	冷暖房の適正温度の励行 空調使用時期および時間の短縮	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	本社・大阪高速管理所	コード (1126) 電気使用設備の 運用改善	こまめの照明スイッチのオフ 事務機器を節約モードにして使用する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪北	コード (1122) 空気調和設備の 運用改善	冷暖房の適正温度の励行 空調使用時期および時間の短縮	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪北	コード (1126) 電気使用設備の 運用改善	こまめの照明スイッチのオフ 事務機器を節約モードにして使用する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	本社・大阪高速管理所	コード (1126) 昇降設備の不要 不急の利用自粛	エレベーターの使用制限	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	大阪駅JR高速 バスターミナル	コード (1215) 照明設備の電気 量抑制	自動販売機照明の点灯時間短縮	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	本社	コード (1122) 空気調和設備の 更新による省エ ネ化推進	空気調和設備の更新	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	大阪北	コード (5112) 構内照明設備の LED化による使用 電力抑制	構内照明設備のLED化	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

## 2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社・大阪高速管理所	コード (2123) アイドリングス トップ等の実践	各バス停の発着所において積極的にアイドリングストップを実施、また無駄な空ぶかし等は絶対に行わない事を全社員に徹底する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社・大阪高速管理所	コード (2114) 低燃費運転の意 識向上に関する 指導強化	全車にデジタルタコグラフを装着し、常に効率のいい運転をしているのかを把握、乗務員全員に指導、徹底している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	本社・大阪高速管理所	コード (2126) 需要に合わせた 輸送の効率化	輸送状況を常に把握し定期的なダイヤ変更で輸送の効率化を図りエネルギーの消費を防ぐ	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	本社・大阪高速管理所	コード (2123) アイドリングス トップ等の実践	各バス停の発着所において積極的にアイドリングストップを実施、また無駄な空ぶかし等は絶対に行わない事を全社員に徹底する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

5	レ	GHG排出	本社・大阪高速管理所	コード (2123) 低燃費運転の意識向上に関する指導強化	全車にデジタルタコグラフを装着し、常に効率のいい運転をしているのかを把握、乗務員全員に指導、徹底している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
6	レ	GHG排出	本社・大阪高速管理所	コード (2126) 需要に合わせた輸送の効率化	輸送状況を常に把握し定期的なタイヤ変更で輸送の効率化を図りエネルギーの消費を防ぐ	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策

全車両にデジタルタコグラフを装着、燃料の消費、燃料集計の他、アイドリングストップ実施の有無。また急発進や急加速など行っていないかを検証し、エコドライブを全社員に周知徹底させるとともに、新型車両の導入により燃料消費率を低減する。

## 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市都島区東野田町4-5-82	氏名	西日本電信電話株式会社 取締役大阪支店長 岸本 照之
特定事業者の主たる業種		37通信業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		西日本地域（大阪府域）における地域電気通信業務（圏内通信に係る電話、専用、総合デジタル通信などの電気通信サービス）およびこれに附帯する業務、目的達成業務、活用業務		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	184,443 t-CO <sub>2</sub>	183,232 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	207,575 t-CO <sub>2</sub>	200,339 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	-2.8 %	-0.4 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-7.0 %	5.5 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>基準年度と比較して、エネルギー総使用量、原油換算量は各々8.0%削減したが、温室効果ガス削減目標達成状況は0.7%減となった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・次年度に向けて、電力の大半を使用している通信設備及び空調設備の更なる見直しを進めて行く。</li> </ul>
--

(2) 推進体制

N T T 西日本グループ地球環境憲章に基づき、支店内に支店長を環境保護責任者とした環境保護推進体制を構築している。支店としての環境方針を定め、環境保護推進活動として「温暖化防止」「紙資源削減」「廃棄物削減」の取組みを実施している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	通信設備設置 事業所	コード (1216)	通信設備用空調装置の室外機、吸気フィルタの 洗浄を実施することで電力使用の効率化を図る (四半期毎に実施)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱		通信設備用空調 装置の効率運転		
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	通信設備設置 事業所	コード (1113)	通信機械室の環境を改善し、空調運転の適正化 を図る。エネルギー使用量の少ない交換機器へ の更改を進める	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱		通信機械室の環 境の改善		
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	通信設備設置 事業所	コード (1215)	通信設備の除却を進め設備のスリム化を図る。 H28年度から新設設備に関しては高効率設備を 導入している	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱		通信機械設備の 統廃合		
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	新高津、生 野、新町、東 淀川など	コード (1216)	新設空調機に関しては、高効率空調機を導入 し、温暖化効果ガスの増加を軽減する H 2 8年度、当該ビルの50%を更改	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱		高効率型空調機 の導入		
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	事務棟 (各フ ロアー)	コード (1215)	勤務時間外 (昼休み含む) の節電対策 (P C、 蛍光灯 (間引き)、稼働エレベータ削減) 及び LED照明への変更を図ると共に社員個々への 節電に関する意識醸成を図る	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱		エコオフィス施 策の展開		
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	事務棟 (各フ ロアー)	コード (1215)	電力使用推移の日々把握を行い啓発に努める。 O C B、阿波座、清水谷などフロアごとの使用 電力の見える化実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱		エコオフィス施 策の展開		
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	事務棟 (各フ ロアー)	コード (1215)	冷房暖房の温度設定の徹底 (冷房 2 8℃、暖房 2 0℃) 節電啓発ポスターの掲示	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱		エコオフィス施 策の展開		
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	新京橋ビル	コード (1215)	2 0 1 7 年 1 0 月 建 設 建築面積 3894㎡ 延床面積 38762㎡ 地上 1 1 F 地下なし 全てのライト (L E D) 高効率空調機導入 自來節電 (水感知センサー) 導入	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱		エコオフィス施 策の展開		
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	業務用車両保 有事業所	コード (2123)	エコドライブ講習会の開催 (年2回) 全 社員による「エコドライブ運動」を実践し、ア イドリングストップを含めた一層のCO2削減に 取り組む。ドライブレコーダ搭載運行記録計に よるドライバー指導の実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱		全社員がエコド ライブ運転を実 践する		
2	レ GHG排出	業務用車両保 有事業所	コード (2121)	社用車の利用を押さえる、大阪市内への移動は 公共交通機関の利用	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱		車両更改		

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪市淀川区新高1-4-10	氏名	西日本三菱自動車販売株式会社 取締役社長 一宮 堅次
特定事業者の主たる業種		60その他の小売業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		自動車販売（新車・中古車）及び自動車整備業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	2,525 t-CO <sub>2</sub>	2,080 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	2,828 t-CO <sub>2</sub>	2,341 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	10.9 %	16.6 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	11.6 %	16.9 %	17.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>エネルギー効率向上の為に設備更新を推進する。①店舗改装・建替時に照明器具のLED及び空調機の省エネタイプ導入に取り組んでいます。②照明器具更新時にLEDの導入に取り組んでいます。③空調機更新時に省エネタイプの導入に取り組んでいます。④複合機更新時にグリーン購入法適合商品の導入に取り組んでいます。</p>
---

(2) 推進体制

<p>エコアクション 21 の認証取得しエネルギー使用の合理化に取組み、またその確認・評価を行っています。</p>
---

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1218) 照明の間引・消 灯	照明を間引きし昼休みや不在時には消灯を実施 する	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	全ての事業所	コード (5111) エアコン温度の 適正化	クールビズ・ウォームビズ導入によるエアコン 温度の適正化を実施し電力使用量を削減する	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1111) エコアクション 21 の取組み推 進	エコアクション 21 の取組み推進による電力使 用量削減	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1114) 空調機フィル ター清掃	空調機フィルターを定期的に清掃し電力使用量 のロスを減少させる	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1218) 照明設備のLED化 を推進	照明設備のLED化を推進し導入を図る	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1216) 空調設備の更新 を推進	空調設備の更新を推進し省エネタイプの導入を 図る	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	全ての事業所	コード (1299) 複合機の更新を 推進	複合機の更新を推進し省エネタイプの導入を図 る	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの 推進	社有車使用時のエコドライブの推進	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
2	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 低燃費車の導入 推進と台数削減	現在使用している代車等を低燃費車への入替を 推進するとともに台数の削減にも取り組む	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
3	レ GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 電気自動車の導 入推進	現在使用している社有車を電気自動車への入替 を推進するとともに台数の削減にも取り組む	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者	住所	大阪市北区芝田 2-4-24	氏名	西日本旅客鉄道株式会社 代表取締役社長 来島 達夫
特定事業者の主たる業種		42鉄道業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、旅客鉄道事業を行い、その他の鉄道病院、社員育成の研修センター等を運営している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	10,033 t-CO <sub>2</sub>	10,398 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	10,570 t-CO <sub>2</sub>	11,392 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	5.5 %	-7.5 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	0.4 %	-11.5 %	-7.8 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>気候変動の影響によるエネルギー消費量増加により、削減率は-3.6%となった。しかしながら今後も社員一人ひとりが環境保護について自ら考え行動する「考動エコ」の取り組みを継続し、エコドライブ運転の取り組み、節電においては冷暖房の設定温度の適正化、不要照明の消灯、高効率照明の導入等を推進し、温室効果ガス排出量の抑制に努めていく。</p>
---



(2) 推進体制

法令順守を基本に環境負荷の低減を目指し、ISO14001に準拠した独自の環境管理システムを構築し環境管理の取り組みを展開している。また、本社、支社主催の研修会を年数回実施し、意識の高揚、環境実務者の養成を行うとともに、毎年、各事業所独自及び上位の環境審査を行い現状改善を行う等、現体制を維持している。また、各事業所に地球環境員会を設置し省エネ・省資源等の取り組み、また地球温暖化防止の取り組みを進めている。

社長を地球環境委員会の委員長とし、より積極的取り組みとしてCO2削減という社会的課題に向けた施策を検討するとともに、個人意識の醸成を礎に企業グループ全体で環境に関する感度を高める施策を推進している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪鉄道病院	コード (1113) 機器の高効率な運用	こまめなスイッチの入り切り、冷暖房の適正化などを行い機器の高効率な運用を図る。(年間 t-CO2 を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (5131) 推進体制の整備	地球環境委員会の委員長を鉄道本部長から社長へ移行させ、全社・グループ企業を挙げての体制に編成し直すとともに、「考動エコ」と銘打った個人の意識レベルからの改革に取り組	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	本社 社員研修センター	コード (5112) 照明設備	現在使用している40W蛍光灯を36W蛍光灯への取り替えを継続	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	本社	コード (1216) 空気調和設備	夏期におけるヒートポンプチャラーの運転回数削減	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2114) 業務用自動車の 配置見直し	各事業における自動車の稼働は、必然的、緊急的な稼働が多く段階的な削減は難しいため現状維持とするが、適切な自動車の配備台数の見直しや削減に努める。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	駅を中心に事業用自動車の軽乗用車、ハイブリッド車の導入を進める。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブの 推進	業務用自動車のエコドライブ推進 ふんわりアクセルスタートの実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪市淀川区三津屋北3-3-29	氏名	日澱化学株式会社 代表取締役社長 北本 俊彦
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		府内の本社兼工場（1箇所）にて加工澱粉の製造を行い、国内、海外に販売している。他に東京に営業所を1箇所設けている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	6,054 t-CO <sub>2</sub>	6,807 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,276 t-CO <sub>2</sub>	7,060 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	1.0 %	2.3 %
削減率(平準化補正ベース)		-	1.1 %	2.3 %	6.9 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(加工澱粉の生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成29年度は、大阪工場にて、加熱乾燥装置の設定温度の見直し、一部製品専用の乾燥工程の新設、乳液用予備加熱装置の蒸気圧の見直し、洗浄用水タンクの加熱に廃棄していた蒸気ドレンの利用、ボイラー用給水タンクの温度ムラの低減対策、工場内送水ポンプの送水圧力の見直しを行いました。</p>
--

(2) 推進体制

工場長を委員長とする省エネルギー委員会を設置し、毎月、現状の改善などを検討しております。また管理監督者会議を定期的に行い、各部署での対策を行っております。今後も継続し、より充実した対策を計画・実施していく予定です。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1125) 蒸気配管等の断熱化	蒸気配管等の未保温部分、保温材の老朽化部分の保温を行うことで、熱損失を低減し、ボイラーでの燃料節減を行う。(平成27年度17t-CO2削減、平成28年度21t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1126) インバータの導入	送風機等でインバータを導入し、負荷に見合った運転を行うことで、消費電力の削減を行う。(平成27年度7t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1126) ポンプの流量または吐出圧力の見直し	ポンプの流量または吐出圧力の見直しを行い、インバータの設置等の対策を行い、消費電力の削減を行う。(平成27年度6t-CO2削減、平成29年度5t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 照明設備のLED化	蛍光灯等の照明設備をLED照明に更新し、消費電力の削減を行う。(平成28年度3t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 圧縮エアー使用量の削減	圧縮エアー使用設備のエアー使用量の削減を行い、コンプレッサーの消費電力の削減を行う。(平成27年度3t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1122) ボイラーのプロロー率の低減	蒸気ボイラーのプロロー率を低減することで、熱損失の低減を行い、燃料使用量の低減を行いました。(平成28年度6t-CO2削減)	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1122) 一部製品専用の乾燥ラインの新設	一部製品の乾燥ラインを新設、稼働することで、既設乾燥ラインより蒸気使用量の削減を行う。(平成29年度50t-CO2削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1122) 液加熱装置の設定蒸気圧の見直し	液加熱装置の設定蒸気圧の見直しを行い、蒸気使用量の削減を行う。(平成29年度1t-CO2削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1123) 廃棄していた蒸気ドレンの再利用	洗浄用タンクの加熱に、廃棄していた蒸気ドレンを再利用する。(平成29年度2t-CO2削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1123) ボイラー用給水タンクの改善	蒸気ボイラー用給水タンクに入るフラッシュ蒸気配管の改造による温度ムラの改善を行い都市ガス使用量の削減を行う。(平成29年度7t-CO2削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1122) 加熱乾燥装置の設定温度の見直し	加熱乾燥装置にて、設定温度の見直しを行い、加熱時間の短縮を行う。(平成29年度12t-CO2削減)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

---

(4)その他の抑制対策


# 実績報告書

	届出者	住所 大阪府高槻市東上牧1-2-5	氏名	株式会社ニチレイフーズ 関西工場 工場長 平岡 省二
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に冷凍食品の製造を行っており、大阪府下に2工場を有している。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	14,419 t-CO <sub>2</sub>	15,648 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	15,549 t-CO <sub>2</sub>	17,188 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%	
		削減率(原単位ベース)	3.2 %	-5.2 %	-0.4 %	0.9 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-6.8 %	-1.7 %	-1.1 %
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 生産量 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>&lt;詳細/H26年度(基準年度)比/&gt;%&gt;CO<sub>2</sub>: 関西95.7, 関西第二105.7、電気: 関西93.2, 関西第二108.3、ガス: 関西100.3, 関西第二103.2、生産量: 関西109.2, 関西第二110.5</p> <p>&lt;状況&gt;関西第二工場での悪化が大きく影響した。その要因: ①製品のリニューアルに伴う生産設備の増加及び稼働時間の延長(生産量増加)/冷凍機、ガスバーナー等、②省人化や工場環境整備の設備の増加: ロボットケーサー、空調機等。</p>
<p>対策として、老朽化設備の計画的な更新及び設備の運用方法の見直しは継続的に行い、エネルギー再利用を主とする省エネ設備の検討/導入によりCO<sub>2</sub>発生量の削減を図ります。</p>

(2) 推進体制

<p>・ISO14001の認証取得（関西工場：2001年、関西第二工場：2004年）における「環境保全委員会」にて、四半期ごとに各部署での取組み事項の進捗報告及び目標達成の為の対策事項の見直し及び共有化を図っております。</p>
<p>・各工程毎のエネルギー消費量を毎月集計し、PDCAによる課題解決を継続して実施します。</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西工場	コード (1122) 冷凍冷蔵設備の 導入	冷凍冷蔵設備：第3製品冷凍機の入替／老朽化 による高効率機への更新 1台／動力7.5kW相当 ▲3.9t-CO2 (1.5kL) *H27～H29:未実施	2016 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	関西工場	コード (1216) 空調設備の導入	空調設備（電気式）：老朽化による更新 高効率機への更新／計2系統（洗濯+厨房）／約 6kW相当 ▲5.2 (2kL) *H27～H29:未実施	2016 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	関西工場	コード (1216) 空調設備の導入	空調設備（ガス式）：老朽化による更新 高効率機への更新／計2系統（成形+包装）／計 15kW相当 ▲11.8t-CO2 (4.5kL) *H27～H29:未実施	2016 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	関西工場	コード (1215) コンデンサの導入	自動力率調整装置設置 1台（2工場1000KVA/冷凍機動力用） ▲39.3t-CO2 (15kL) *H27～H29:未実施	2016 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	関西工場	コード (1216) 空調設備の導入	空調設備（吸収式）：老朽化による高効率機への 更新 ・300冷凍トン×1台、▲36.7t-CO2 (14kL) *H29.5.実施済、▲101t-CO2/年 (51kL)	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	関西工場	コード (1211) ボイラー設備の 導入	炉筒煙管ボイラーの貫流化 ▲73.4t-CO2 (28kL) *H30.1.実施済、▲77t-CO2/年 (38kL)	2016 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	関西工場	コード (1122) 加熱装置の導入	フライヤー更新 ▲73.4t-CO2 (28kL) *H27～H29:未実施	2016 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	関西工場	コード (1215) インバータの導入	インバータの導入：井戸ポンプ3号機 *H27:新規記入。2015年10月実施済。▲18t- CO2 (8kL)	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	関西第二工場	コード (1215) 照明機器の更新	照明機器の更新(LED化)：計約600本、▲26t-CO2 (12kL) *H27:新規記入/約220本/▲7t- CO2 (3kL), H28:138本/▲10t-CO2 (5KL)	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

		大阪市北区天満1丁目3番21号 ニチレイ天満橋ビル1階	氏名	(株)ニチレイ・ロジスティクス関西 代表取締役社長 池田 忠男
特定事業者の主たる業種		47倉庫業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当社は冷蔵倉庫を主体とした企業であり、近畿及び北陸地区に13の拠点をもっている。その内大阪市内では6の拠点がある。		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	18,527 t-CO <sub>2</sub>	18,231 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	20,416 t-CO <sub>2</sub>	20,354 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-0.1 %	10.8 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-1.9 %	3.1 %
吸収量による削減率		-	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (大阪府内の事業所取扱入庫屯数)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成27年度に策定した対策計画書の原単位ベースの削減率3%は夏季の外気温度上昇により冷凍機運転時間が増加した為、電力使用量の増加に繋がったが年間通しては冷凍機の適正運転並びに効率運転を行い取扱い屯数は増加しているが電力使用量は前年度と同等であった。今年度も保管商品別の庫内設定温度の見直しを実施しており、削減効果も表れている。又設備投資として冷蔵庫内・荷捌室のLED照明設備の導入も積極的に行う方向性が決定しており、順次改修予定である。</p>
---

(2) 推進体制

①ニチレイグループ新環境情報収集システム（エコアシスト）を導入し、エネルギー管理を実施している ②全事業所の設備点検（社内監査）を実施し、設備の維持管理状況を確認し、エネルギー使用の効率化を図っている ③ニチレイロジグループ環境保全委員会の内容を社内に周知した。また、ニチレイグループCSRレポートを全社員に配布し、グループ内の情報を共有化している ④ニチレイグループの環境e-ランニングによる教育で従業員の省エネ意識向上を図っている

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1111) 冷暖房の温度設定 (冷房28℃、暖房23℃) の管理を行う 空調機の設定温度管理		2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (1111) 昼休みと業務終了後の消灯実施 消灯の推進		2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (1111) パソコンの省電力設定実施 事務機器の省電力の推進		2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 冷凍機スケジュール運転・設定温度の見直し。 デマンド制御の細分化と設定値見直し。 冷凍機運転管理		2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全事業所	コード (1114) 冷媒漏洩点検による冷媒保有量の最適化を行い 効率運転の実施。低温荷捌室冷却器洗浄による 効率運転の実施。 冷凍設備補保守点検の確立		2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪新南港 第2	コード (1218) LED照明器具への更新 (174台) 照明設備の導入		2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	梅町	コード (1218) LED照明器具への更新 (118台) 照明設備の導入		2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	二色の浜	コード (1218) LED照明器具への更新 (24台) 照明設備の導入		2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪新南港 第2	コード (1215) 冷却塔3台を更新し、冷凍機の高圧圧力を抑制 することで電力量を削減 冷凍設備導入		2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	二色の浜	コード (1218) LED照明器具への更新 (37台) 照明設備の導入		2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	大阪新南港 第2	コード (1218) LED照明器具への更新 (12台) 照明設備の導入		2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	高槻	コード (1218) LED照明器具への更新 (91台) 照明設備の導入		2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	高槻	コード (1215) 冷却塔1台を更新し、冷凍機の高圧圧力を抑制 することで電力量を削減 冷凍設備導入		2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
	レ	GHG排出		コード (1215) 冷却塔1台を更新し、冷凍機の高圧圧力を抑制		2017 年度



14	レ	人工排熱	梅町	冷凍設備導入	することで電力量を削減	～ 2017 年度
	レ	平準化				
15	レ	GHG排出	二色の浜	コード (1218) 照明設備の導入	LED照明器具への更新 (174台)、一部人感センサー付き	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	大阪新南港 第1	コード (1218) 照明設備の導入	LED照明器具への更新 (62台)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
17	レ	GHG排出	大阪埠頭	コード (1218) 照明設備の導入	LED照明器具への更新 (90台)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
18	レ	GHG排出	大阪新南港 第2	コード (1218) 照明設備の導入	LED照明器具への更新 (571台)、一部人感センサー付き	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
19	レ	GHG排出	高槻	コード (1218) 照明設備の導入	LED照明器具への更新 (524台)、一部人感センサー付き	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
20	レ	GHG排出	咲洲	コード (1222) 太陽光発電設備の導入	太陽光発電設備を設置 (出力493.695kw)	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブの 推進	停車中のアイドリングSTOP	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市堺区遠里小野町3-2-24	氏名	株式会社ニッカトー 代表取締役社長 大西 宏司
特定事業者の主たる業種		21窯業・土石製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、ファインセラミックス製品の製造を行っており、大阪府内に2ヶ所の工場を有しております。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	10,812 t-CO <sub>2</sub>	12,503 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	11,409 t-CO <sub>2</sub>	13,224 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.3 %	4.6 %	5.6 %
削減率(平準化補正ベース)		-	4.5 %	5.5 %	6.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (大阪府内の2工場の内製製品重量)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成29年度は、原単位ベースで基準年度比6.5%という結果となりました。29年度の内製製品重量が、基準年度より約24%増加したことにより、製品製造に係るエネルギー高率が改善されました。29年度は製品収率が向上したことおよび昨年度と同様に製造にかかるエネルギー効率の良い製品の製造量が多かったことも原単位ベースでの温室効果ガス排出量が削減した要因です。また、内製製品重量の増加に伴い、温室効果ガス排出量の総量は、基準年度比15.6%の増加となりました。</p>
--

(2) 推進体制

・大阪府内の2工場について、平成14年3月にISO 14001を認証取得し、当社の環境マネジメントシステムに基づき省エネの取組を推進している。(2017年に2015年版への更新完了)  
 ・月に1回開催している環境委員会において、毎月のエネルギー使用量・温室効果ガス排出量の報告を行い、また、各部門で設定している環境目標に自部門で実施する対策を盛り込んでいる。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	堺工場	コード (1211) 焼成炉の更新	堺工場の既存の焼成炉を、老朽化(昭和43年設置)に伴い廃止し、新規の焼成炉に更新する。焼成条件設定に29年度上期まで時間を要し、製品の製造に寄与し始めたのは下期の5ヶ月程度経過する。	2015 年度
	レ 人工排熱				2015 年度
	平準化				
2	レ GHG排出	堺工場 東山工場	コード (1125) 焼成炉の炉材改修による断熱性向上	焼成炉の炉材の修理・交換による燃料(都市ガス)の使用量を削減。28年度以降も継続的に実施。 (年間23t-CO2の削減)	2015 年度
	レ 人工排熱				2017 年度
	平準化				
3	レ GHG排出	堺工場 東山工場	コード (1199) 各工程の原料ロス削減	製品歩留まりを向上することで、原単位ベースでのエネルギー使用量を削減。 (年間86t-CO2の削減)	2015 年度
	レ 人工排熱				2017 年度
	平準化				
4	レ GHG排出	堺工場 東山工場	コード (1199) 焼成炉への製品詰め量の増加	1回あたりの焼成炉への製品詰め量を増加させることにより、原単位ベースでのエネルギー使用量削減を実施。(生産量が少ない時期の連続炉の停止を含む) (年間11t-CO2の削減)	2015 年度
	レ 人工排熱				2017 年度
	平準化				
5	GHG排出	堺工場 東山工場	コード (5999) ガス発電機使用による電力ピークカット	ガス発電機の使用により、夏期の電力のピークカットを実施。 (ガス使用量23千m3：発電量82千kWh、CO2排出量11ton増加)	2015 年度
	人工排熱				2017 年度
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
					年度

(4) その他の抑制対策

・自動車運転の際、アイドリングストップを実施しており、また資材を搬入する運送業者等にも不要なアイドリングをしないよう正門に掲示するなど要請を継続して行っている。  
 ・夏期期間の節電要請を受け、平成24年度にガス発電装置を導入し、電力のピークカットに努めております。それに伴い、平成29年度の電力使用量は自家発電分(約82千kWh)は削減されましたが、都市ガスの使用量はその分増加(約23千m3)し、両工場合計のCO2排出量は約11ton増加しました。

# 実績報告書

		大阪府大阪市淀川区西中島4-1-1 日清食品HD大阪本社ビル5F	氏名	株式会社ニッキーフーズ 代表取締役社長 楠本一人
特定事業者の主たる業種		52飲食料品卸売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		冷凍食品の製造と販売を行っている。本社は大阪市内にあり、泉佐野市と富田林市にそれぞれ自社工場がある。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	5,702 t-CO <sub>2</sub>	5,769 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,302 t-CO <sub>2</sub>	6,267 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) %	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	4.4 %	14.7 %
削減率(平準化補正ベース)		-	4.6 %	7.1 %	16.1 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産重量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

工場の照明をLEDへ随時更新	工場の事務所および製造現場の空調機を更新	社用車をハイブリッドカーに随時変更
----------------	----------------------	-------------------

(2) 推進体制

本社生産本部の本部長をエネルギー統括者、第2種エネルギー指定工場の泉佐野工場長をエネルギー企画推進者に選任して、毎月1回以上の生産会議の中で省エネ対策も議題に入れて実施

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1122) 空調機更新	冷暖房の温度設定を最適に行えるように運転制御。古い空調機については高効率空調機に随時更新。平成29年度にて泉佐野工場事務所の空調機を更新。製造現場は順次更新。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (1218) 照明設備のLED化	照明設備をLEDに随時更新。全体の85%程度更新済み。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (5115) クールビズの実施	5月～10月まで全社でクールビズを実施して、空調機の設定温度を調整する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	両工場	コード (1215) 生産設備の更新と改良	生産設備にインバーターを導入する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	泉佐野工場	コード (1215) 冷凍・冷蔵設備の購入	高効率による省エネ化	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	富田林工場	コード (1215) 冷凍・冷蔵設備の購入	高効率による省エネ化	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	泉佐野工場	コード (1212) 高効率による省エネ化	高効率による省エネ化	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	富田林工場	コード (1212) ボイラー更新	高効率による省エネ化 平成28年度実施済	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	リース契約更新時に低燃費車に入れ替え	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブの推進	全車エコドライブの実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大東市南新田 1-5-1	氏名	株式会社日研工作所 代表取締役 長濱明治
特定事業者の主たる業種		26生産用機械器具製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		工作機械関連機器の製造・販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	5,619 t-CO <sub>2</sub>	6,284 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,327 t-CO <sub>2</sub>	7,024 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2018 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)	
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%	
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-25.1 %	-34.4 %	-27.9 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-24.7 %	-33.8 %	-26.9 %
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 総出荷金額 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

デマンド制御装置を稼働し省エネ対策を実施した。 照明の間引き及び空調の稼働調整を行ったが、使用量は増加した
--

(2) 推進体制

生産統括部長を長とする省エネルギー推進担当者会議を設置し適宜、対策の進捗状況、改善運動を実施する

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社	コード (1199) 夏制服の改良	クールビズ用の制服を採用し、冷房に対応しやすくする。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	本社	コード (1113) デマンド制御装置を稼働	デマンド制御装置を稼働し最大電力を抑える	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	本社	コード (1218) 照明の消灯	昼休みの照明の消灯	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	本社	コード (1215) 工作機械の空転防止	昼休みの工作機械の無駄な空転を停止する	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	本社	コード (1216) 冷暖房設備の設定温度徹底	冷暖房設備の設定温度を徹底する	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	本社	コード (5121) 焼入炉の運転調整	焼入炉のピーク調整	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	本社	コード (5999) ロボット稼働	ロボットを稼働させ、夜間、土日の運転	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社	コード (2123) 営業車を含む全車にエコドライブを実施する	営業車を含む全車についてエコドライブを実施する	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社	コード (2121) 低燃費車の導入	車両入替時には低燃費車を指定する	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市西区南堀江3-14-22	氏名	日産大阪販売株式会社 代表取締役 白土 貴久
特定事業者の主たる業種		60その他の小売業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		新車・中古車販売、部用品販売、サービス（車検・定検・修理 等）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	6,733 t-CO <sub>2</sub>	7,691 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,686 t-CO <sub>2</sub>	8,584 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	0.6 %	0.6 %	-15.7 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	1.6 %	-15.0 %	-11.7 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>順次店舗照明をLED化し(約8割実施済)、エコ活動と合わせCO<sub>2</sub>削減に取り組みました。電気供給会社の変更などCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいますが、夏場の異常気象への対応として電気使用量が増えたのが原因。</p>
---



(2) 推進体制

部門長、各店長を責任者とし、経費節減が温室効果ガスの削減や人工排熱の抑制対策に繋がることを各々意識して取り組みます。

毎月の燃料費、動力費、光熱費等の記録を取り、削減効果の見える化をいたします。また、総務部門は設備更新の際、環境への負荷が少ない製品を採用するよう努めてまいります。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社	コード (1112)	エネルギー使用の実態把握と低減計画を立案⇒H28年度実施  管理体制の確立	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全拠点の事務スペース	コード (1122)	夏はクールビズを実施、エアコン温度28度に設定。冬はセーターやジャンパー等で寒さを補い、暖房温度21度に設定。本社ビルの空調機入替を実施。⇒H28年度実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全拠点の事務スペース	コード (1218)	省エネ型照明器具を導入し省エネに努めています。LED照明の順次導入を実施。⇒H28年度実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全拠点	コード (2112)	燃費データの把握と管理⇒H28年度実施  燃費データの管理	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全拠点	コード (2121)	サービス代車等をコンパクトカー中心にする。⇒H28年度実施  低燃費車の導入	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全拠点	コード (2122)	サービス代車等を各拠点必要最小限の保有台数に設定。また訪問活動においては、訪問地区を計画的にし、極力電車・バス・自転車等を使用するよう徹底。⇒H28年度実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	全拠点	コード (2123)	全拠点の社有車において、エコドライブを実施。⇒H28年度実施  エコドライブの推進	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

		神奈川県横浜市西区高島一丁目1番1号		株式会社日産カーレンタルソリューション
届出者	住所		氏名	代表取締役 岡本 智
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		レンタカーの賃貸		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	5,534 t-CO <sub>2</sub>	8,015 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,534 t-CO <sub>2</sub>	0 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	-2.2 %	-52.0 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>低燃費車への代替を積極的に行っているため、レンタカーの台数がH26年度の1,011台から1,666台と1.64倍(H28年度は1,622台で1.60倍)増加したのに対し、エネルギー総使用量は、H26年度の82,409G Jから119,399G J(H28年度は125,254G J)と増加率は1.45倍(H28年度は1.52倍)に抑えることができた。</p> <p>また、総走行距離はH28年度とほぼ同数値であるのに対し、エネルギー量は95.3%に抑えられており、低燃費車への代替効果が現れていると言える。</p>
--

(2) 推進体制

本社にて購入車両の選定時、ハイブリッド車等のエコカーを優先的に選定している。  
 エコカー以外の車両は可能な限り減車をし、温室効果ガスの削減を図る。  
 店舗においては、店舗間の車両の共有利用を推進することで無駄な回送を減らし、温室効果ガスの削減に努めている。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	全店舗	コード (2121)	ガソリン車からハイブリッド車両の代替 エコカー車両の代替	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
2	レ GHG排出	全店舗	コード (2121)	車両代替サイクルを見直し、代替期間を短縮して高年式車両の保有率を多くする。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

車両代替に関しては、低燃費車両の導入を優先的に行う。ハイブリッド車両及びエコカー車両の代替をして燃料の削減に努める。又、代替サイクルを短縮して、新車台数を多く保有することを目指します。

## 実績報告書

届出者	住所	大阪府東大阪市高井田元町2-4-3	氏名	株式会社日産レンタリース阪南 代表取締役 北村太作
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		日産カーレンタルソリューションのフランチャイズ会社として、大阪府下でレンタカー業を行っており、東大阪市に3店舗、八尾市に1店舗、堺市に2店舗の合計6店舗、出店しています。		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2017 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	1,998 t-CO <sub>2</sub>	2,175 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	1,998 t-CO <sub>2</sub>	2,180 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	3.7 %	1.6 %	0.4 %	0.7 %
削減率(平準化補正ベース)		-	1.4 %	0.2 %	0.5 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 売上金額 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>日産自動車のリコール問題の結果、販売会社の代車需要が大きく伸び、結果的に原単位ベースである売上金額が伸びたため、上記の削減率達成状況となった。30年度は、このような特需が見込めないと思われるので、保有台数の見直しなど、迅速な対応により、GHGの削減に取り組めます。</p>
---

(2) 推進体制

全社的に温室効果ガス排出削減に取り組むため、幹部会、店長会にて毎月、燃料使用量、回送費用を報告し、現状の把握と対応策を検討する。四半期毎に、車両の更新計画を見直し、低燃費車、低排出ガス車への更新を促進し、需要に見合った車両台数ならびに車種に更新する。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全社	コード (2114) 法定点検の100%実施	法定点検の100%実施、並びに走行過多車両は適時臨時点検を実施する。不具合車両を早期に発見するため自主点検も合わせて行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
2	GHG排出	全社	コード (2126) 車両回送の効率化	車両配置のオンライン化により各店舗への車両配置を適正化し回送を極力少なくする。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
3	GHG排出	全社	コード (2121) 低燃費車への代替	日産自動車の新型車の発売にあわせ低燃費車を積極的に導入する。又、需要の高いコンパクトカー、軽自動車へシフトする。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
4	GHG排出	全社	コード (2123) ユーザーに対するエコドライブの啓蒙	車両貸し出し時に、事故防止とエコドライブの啓蒙をする。パンフレット、マニュアル等を使用。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

本社並びに各店舗の照明設備の更新にあわせLED化。  
(27年度中に全店舗の照明を更新する予定。)

# 実績報告書

届出者	住所	東京都中央区新川一丁目23番1号	氏名	日清オイリオグループ株式会社 代表取締役社長 久野 貴久
-----	----	------------------	----	---------------------------------

特定事業者の主たる業種 9食料品製造業

該当する特定事業者の要件	レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者
		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者

事業の概要

当社は食品をはじめ生活にかかわる多岐の分野において、油脂・油糧事業、加工油脂事業、ファインケミカル事業、ヘルシーフーズ事業を展開しています。国内には、生産拠点として4工場、販売拠点として8支店を設置しており、うち大阪府内には、堺工場および大阪事業場を配置し、生産営業活動を行なっています。

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	10,067 t-CO <sub>2</sub>	9,911 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	10,237 t-CO <sub>2</sub>	10,089 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	削減率 (排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	削減率 (原単位ベース)	3.0 %	-0.9 %	2.7 %
削減率 (平準化補正ベース)		-	-1.1 %	2.6 %	4.1 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 堺事業場原料油取扱量 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

## ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成29年度のCO2排出原単位は、基準年度である平成26年度CO2排出原単位に対して4.17%の削減となった。照明設備の高効率化(蛍光灯→LED)、その他運転管理見直しによる効率化による効果と考える。</p>
<p>今後も省エネ機器等の導入推進及び運転管理の最適化を行い、CO2発生量の削減を達成していく。また省エネ活動を通じて従業員への働きかけを継続して実施していく。</p>

(2) 推進体制

<p>堺工場では温暖化対策に取り組むためISO14001を認証取得し、活動を行なっています。その中で工場長を実行経営者として四半期ごとに環境会議を開催し、対策の進捗状況を把握確認し現状改善等を検討しております。各部署で省エネ活動を推進し、省エネ管理の強化および従業員の意識向上に取り組んでいます。</p>
<p>大阪事業場では営業車の運転に関し、省エネ運転を遂行するようドライバーに注意喚起をしております。また夏季にクールビズを実施し、空調関係の消費電力削減に向けて取り組んでいます。</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業場	コード (1113) 空調設備の運用改善	冷暖房の温度設定を最適に行えるよう運転制御・管理システムを運用する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	堺工場	コード (1215) 高効率機器への更新	脱臭冷凍機の更新 (レシプロ→ターボ式) 年間 150 t-CO2を削減	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	堺工場	コード (1113) 脱臭冷凍機の運用改善	脱臭冷凍機の設定温度及び運転管理の最適化により電気使用量を削減する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	堺工場	コード (1218) 高効率機器への更新	高効率照明設備への更新	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	堺工場	コード (1216) 高効率機器への更新	倉庫棟空調設備更新	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業場	コード (2123) 省エネ運転の徹底	急発進、急加速の回避によりガソリン消費量を削減する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪事業場	コード (2121) ハイブリット車の導入	営業車へのハイブリット車の導入推進	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

<p>1. 堺工場内にて省エネ講演会 (省エネ月間行事) を開催し、省エネ知識の取得、啓蒙を図る。</p>
<p>2. 堺工場内において省エネ委員会 (1回/3ヵ月) を開催し各部署の省エネ活動の共有を図る。また、他拠点との省エネ横断チームより省エネ事例の共有を図る。</p>

\_\_\_\_\_



# 実績報告書

届出者	住所	大阪府柏原市片山町12-6	氏名	日新鋼業株式会社 代表取締役 國松 俊雄
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主にステンレス鋼線の伸線・圧延及び熱処理を行なっている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間				
2015年	4月	1日	～	2018年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	4,643 t-CO <sub>2</sub>	4,375 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,038 t-CO <sub>2</sub>	4,727 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)	
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%	
	レ	削減率(原単位ベース)	3.0%	-12.2%	-8.8%	-2.0%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-12.1%	-8.7%	-1.6%
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>当社の電気使用量の大半は熱処理炉が占めており、この設備は停止する事が困難な設備であり、生産量に関わらず一定の電気使用量が必要となっております。その為、生産量が減少してしまうと原単位の値が大きくなります。今年度の生産量は第1年度、第2年度と比べ大幅に増加したが、基準年度と比較すると少なく、その為削減率がマイナスになったと考えられる。しかし今年度は、熱処理炉を1台更新を行ない、またLED化が完了した為、エネルギーの使用量・温室効果ガスは削減できている。</p>
---

(2) 推進体制

2009.4にISO14001取得し、環境目標にエネルギー使用量削減を掲げ、月1回の品質/環境委員会において進捗状況の報告、対策・改善の検討を行なっています。  
 実施状況として、夏季の平日に一部施設を11:00~17:00の間停止し、100kWのピークカットを実施した。  
 また、夏季、冬季関わらず、月曜の8:00~14:30、金曜の15:45~22:00の間連続伸線工場を停止しております。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	日新鋼業株式会社 本社	コード (1122) 熱処理炉の更新	現在所有している熱処理炉を2台更新し、年70.3 t-CO2の削減を図る	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	日新鋼業株式会社 本社	コード (5121) 設備の稼働効率化 (現有設備の停止)	設備の稼働効率化を図り、年11.4 t-CO2の削減を狙う。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	日新鋼業株式会社 本社	コード (1218) 工場照明の全てのLED化	工場内照明をLEDに変更し、年88.0tのCo2削減を図る。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ~ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市堺区石津北町80	氏名	日清シスコ株式会社 代表取締役社長 豊留昭浩
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		弊社本社工場は1924年に設立され、1991年に日清食品(株)グループに参入し、主にシリアルフーズを製造する工場である。現在、シリアルフーズ設備、チョコレート加工生産設備を有しており、主な製品として「コーンフレーク」「チョコフレーク」等を生産している。		

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)
---------	---------------------------------

### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	4,986 t-CO <sub>2</sub>	5,442 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,293 t-CO <sub>2</sub>	5,786 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0%	-4.2%	1.4%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-4.4%	-1.9%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産重量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

## ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

生産量の増加(対前年比113%)により原単位ベースで前年比2.1%減と言う結果となりました。作業環境改善の為に空調機の増設を行い、原単位が悪化する予測をしていましたが生産量の増加及び効率重視の生産組立により原単位が良化したと推測されます。
---

(2) 推進体制

弊社は平成15年にISO14001を取得しており会社全体で温暖化防止対策に取り組んでいます。  
省エネルギー推進組織として工場長を中心とした「環境連絡会」を毎月開催し、エネルギー使用状況の確認・省エネ対策の効果の検証等を行っている。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) 空調機器の運転管理	エアコンの設定温度を各部署ごとに設置し可能であればリモコン操作のロックを行う。空調範囲の区切りを行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1125) 蒸気配管の保温強化	工場内蒸気配管において保温を強化する	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 照明器具の更新	40w蛍光灯を32wHf型若くはLED灯へ 随時更新していく。 ⇒一部実施済(平成27年度)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1112) 電力メーター設置	エネルギー使用量把握の為、電力監視 装置を設置する ⇒実施済(平成27年度)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1112) 蒸気流量計の設置	エネルギー使用量把握の為、蒸気流量計 を設置する ⇒実施済(平成27年度)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 圧縮空気配管の見直し	圧縮空気配管経路の見直し及び吐出 圧力の変更により空気圧縮機の消費 電力削減	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大阪工場	コード (4210) 建屋断熱塗装	建屋の断熱塗装により室内空調の 省電力化を行う	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (2213) 自動車の使用管理の改善	工場敷地内では全車、アイドリングを禁止にする。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (2123) エコドライブの推進	社用車でエコドライブを実施する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区丸の内 三丁目4番1号	氏名	日新製鋼株式会社 代表取締役社長 柳川 欽也
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		堺製造所：冷間圧延 及び 表面処理事業 大阪製造所：冷間圧延事業 大阪支社：営業（大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第6条に該当する者）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	295,344 t-CO <sub>2</sub>	278,760 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	311,130 t-CO <sub>2</sub>	290,978 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-1.9 %	2.2 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-1.7 %	2.6 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

生産構成の影響に加え省エネルギーに努めた結果、2.2%の削減率となったが、減産による固定的エネルギー比の増加分を吸収しきれず、目標の3%からは未達となった。
--

(2) 推進体制

(堺製造所) 省エネ推進事務局を設備部 保全課に設置し、各チーム(課)のチームリーダー(課長)を各チームの推進責任者としている。省エネ推進事務局は、所の啓蒙活動、所全体の省エネ推進、各チームの削減目標設定を行い、各チームは、削減目標達成に向けて、各チームで使用しているエネルギーの削減を推進している。

(大阪製造所) 全社的に環境マネジメントシステムの認証取得が完了しており、「省エネの推進」を年環境管理計画に織り込み実施している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	堺製造所	コード (1218)	照明のLED化による電力削減 ⇒H28年度、一部実施	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱		照明のLED化		
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪製造所	コード (1113)	巻直シリン(PMK)操作油圧ポンプ 運転台数見直し 22kw×2台 ⇒ 22kw×1台 ⇒H28年度、実施せず(1台運転は作業上困難であった)	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱		ポンプ 運転台数の削減		
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪製造所	コード (1218)	【新規】照明のLED化による電力削減 ⇒H28年度、一部実施	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱		照明のLED化		
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者	住所	東京都中央区日本橋小網町14-1	氏名	日新製糖株式会社 代表取締役社長 樋口 洋一
特定事業者の主たる業種		9食料品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		砂糖の精製販売、砂糖加工品の製造販売、総合スポーツクラブ経営		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	17,991 t-CO <sub>2</sub>	17,755 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	18,470 t-CO <sub>2</sub>	18,226 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	2.5 %	2.1 %
削減率(平準化補正ベース)		-	2.6 %	2.3 %	2.1 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(原料糖溶糖量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>蛍光灯のLED化を1200台中842台実施完了し、45t-CO<sub>2</sub>の温室効果ガスを削減出来た。</p>
--

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>工場長主催の業績検討会を月1回開催し、その中でガス、電気などのエネルギー原単位の前年対比について意見を交わし削減案について検討している。</li> <li>ISO9001取得により品質・環境面の対策を実施。（平成17年取得）</li> <li>エネルギー管理標準の設定および運用</li> </ul>
---

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	今福工場	コード (1218) LED照明の採用	工場内蛍光灯のLED化(1200台) (全台完了後の効果は年間65t-CO2を削減) 新たにCSR活動の一環として2年間で掛けて実施する	2017 年度 ～ 2018 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	今福工場	コード (1299) 力率改善	力率改善用低圧コンデンサ追加 (200kVar) (効果年間60t-CO2を削減) H29年3月に設置したが効果が検証出来ていない (H30年度中に検証予定)	2016 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	今福工場	コード (1124) 熱エネルギー変換	蒸気駆動エアコンプレッサ導入 (75KW相当) (効果年間150t-CO2を削減) 熱回収がネックで効果が半減と試算。実施の可否 を検討中。	2018 年度 ～ 2019 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	今福工場	コード (2226) アイドリング停止	アイドリング停止の励行 経済速度の遵守  継続実施中	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策




# 実績報告書

届出者	住所	大阪府八尾市二俣2-22	氏名	新田ゼラチン株式会社 代表取締役社長 尾形 浩一
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ゼラチン・接着剤製造業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)
---------	---------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	24,390 t-CO <sub>2</sub>	25,764 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	25,054 t-CO <sub>2</sub>	26,323 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0%	1.7%	-4.6%
削減率(平準化補正ベース)		-	2.1%	-4.1%	-7.0%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (ゼラチン半製品生産量)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

H21-H23年度の実績報告書では、ゼラチン、接着剤の生産量をエネルギー比率で乗じたものを、生産量としておりましたが、経済産業局提出のエネルギー使用の合理化に関する法律に基づく定期報告書では、ゼラチンの生産量にて原単位を報告していること、及び接着剤のエネルギーの使用比率がゼラチンと比べると大幅に少ないことから、H24年度からの報告書にはゼラチンの生産量のみを使用するものとします。

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>半量ロットでの生産になる高品質ゼラチンの需要が増加した為に生産量が低下した為原単位が悪化した。 H30年12月に全量仕込みが可能な設備の導入し、H30年4月に除湿装置用の冷温水機を1台更新しH30年12月にガスタービン発電機の更新を実施しますので原単位が回復する見込みです。</p>
--

(2) 推進体制

上記目標削減率に関する考え方にも記述しておりますように、ISO14001環境マネジメントシステムを導入し、環境目的目標プログラムを策定し、専務取締役を委員長とする環境管理委員会にて、四半期毎に進捗状況を確認しPDCAをまわすことにより、目標達成をめざしています。また年2回全従業員を対象に省エネを含めた環境一般教育を実施しています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
	平準化				年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
					年度

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

	届出者	東京都千代田区丸の内二丁目 3番2号	氏名	日鉄鉱業株式会社 代表取締役社長 佐藤公生
特定事業者の主たる業種		5鉱業, 採石業, 砂利採取業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、石灰石、砕石の生産販売を行っている。大阪府内には1採石場と1支店がある。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	4,062 t-CO <sub>2</sub>	3,527 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,393 t-CO <sub>2</sub>	3,829 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	-8.5%	7.5%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-8.4%	8.7%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量(粗鉱量))
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>基準年度と比較して平成29年度は生産量(粗鉱量)が大幅に減少し、それに伴い温室効果ガスの削減率も大きくなった。</p>
--

(2) 推進体制

当社のエネルギー管理規程に則り、エネルギー管理標準を作成している。その中で運用計画書や中長期計画書を作成し、エネルギーの削減に努めており、活動結果は毎月会議等で報告されている。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1112) エネルギー管理 標準の作成	エネルギー管理標準の作成・見直しを行い、エネルギーの使用に関するデータ管理を行う。⇒平成29年度については継続実施中	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (5112) 照明の間引きと 消灯	可能な範囲で、事業所内の照明の間引き、窓際の照明の消灯および昼休み時間帯の消灯を行う。⇒平成29年度については継続実施中	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	長尾山採石所	コード (1299) 建設機械の更新	燃費効率の悪い建設機械から燃費効率の良い建設機械に更新する。・平成27年度タイヤショベルおよびタンクトラック・平成28年度タイヤショベルおよびミニショベル⇒平成29年度は対象機種なし	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	長尾山採石所	コード (4220) 採石場残壁および 堆積場の緑化	可能な範囲で、採石場残壁および堆積場の緑化を実施する。⇒平成29年度は実績なし。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	長尾山採石所	コード (1199) 運搬道路の短縮化	原石運搬道路の短縮化により、原石運搬の効率化を図り、燃料使用量の削減を行う。⇒平成29年度は運搬道路の短縮化を実施し、運搬に係る燃料使用量を削減した。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府高石市高砂2丁目11番地	氏名	日鐵住金建材株式会社 大阪製造所 川端 伸一
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		冷間ロール成形法による、形鋼製造業で軽量形鋼・デッキプレート・ガードレール・軽量鋼矢板等の生産活動		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	3,671 t-CO <sub>2</sub>	3,934 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,784 t-CO <sub>2</sub>	4,041 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-6.1 %	-7.8 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-5.7 %	-6.9 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(年間総生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>・前年度と同様に環境マネジメント(EMS活動)の取り組みとして温室効果ガスの排出抑制を目的とした活動として、電力使用量、都市ガス使用量の削減活動を軸に実施したが、生産体制の小ロット生産、短納期対応による生産効率ロスといったことから、原単位の低下傾向が発生、今後は生産性の向上対策で削減対策を図っていくことが課題である。</p>
--

(2) 推進体制

<p>・EMS活動及びEMS委員会を軸に運用活動を進める過程に於いて、環境月報による、毎月のエネルギー原単位の使用実績の確認を行い、効率的な運転および活動がなされているのかをフォローし、各担当者の省エネ意識を高め、節電活動、空運転の防止、ライン、設備のエア漏れ等の防止に努める。</p>
---

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ GHG排出	大阪製造所	コード (1111) 環境マネジメントシステムの効果的な運用	月に1度のEMS委員会の中で協力会社を含めた、職場単位の省エネ、省資源に関するテーマを抽出し、その進捗状況を定期的に報告し、省エネ活動を継続推進実施。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	大阪製造所	コード (1112) エネルギーに関するデータ把握と周知	毎月環境月報として、電力・都市ガス・水道量等を集計グラフ化し、効果の確認、異常が明確化出来る様、全員に周知徹底を図っている。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	大阪製造所	コード (1113) 生産活動における運転管理	設備毎に運転に関する管理標準の運用・見直しを行い、効率的な運転を行う。又、空運転の防止の徹底を図る。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	大阪製造所	コード (1114) 設備管理標準の徹底	設備毎に運転に関する管理標準の運用・見直しを行い、効率的な運転を行う。又、メンテナンスを利用して、エア漏れ等の無駄なエネルギーの放出を防ぐ。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	大阪製造所	コード (1121) エネルギー管理標準等に基く管理	遠赤炉・焼付炉・予熱炉等の燃焼設備について管理項目等を設定したエネルギー管理標準の運用・見直しにより燃料の燃焼の合理化を図る。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	大阪製造所	コード (1122) エネルギー管理標準等に基く管理	貫流ボイラー・給湯設備・熱交換機(ケリングター)等の対象設備についてエネルギー管理標準の運用・見直しにより効率的な運転を行う。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	大阪製造所	コード (1124) エネルギー管理標準等に基く管理	1号・2号コージェネレーション設備にエネルギー管理標準の運用・見直しにより効率的な運転を行う。又、ガス料金と電気料金を比較し、エネルギー効率の向上を目指す。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	大阪製造所	コード (1125) エネルギー管理標準等に基く管理	受電変電設備についてエネルギー管理標準の運用・見直しにより効率的な運転を行う。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	大阪製造所	コード (1126) エネルギー管理標準等に基く管理	ポンプ・ファン・空気圧縮機についてエネルギー管理標準の運用・見直しにより効率的な運転を行う。又、間欠運転が可能な設備は、改造を行い、無駄なエネルギーをなくす。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
10	レ GHG排出	全事業所	コード (1218) 高効率照明への切り替え	従来より実施してきた高効率な照明器具(LED)への交換を継続的に行う。 ⇒平成27年度未実施	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
11	レ GHG排出	大阪製造所	コード (1218) 高効率照明への切り替え	外灯及びクレーン照明のLED化を一部対策した。	2016 年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
12	レ GHG排出	大阪製造所	コード (1225) 自動販売機の省エネタイプへの変更	製造所内の自動販売機(6台)をハイブリッドヒートポンプタイプへの変更を行った。	2016 年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
-----	-------------------------	------	------	-------	--------------

1		GHG 排出		コード		年度 ~ 年度
		人工排熱				

(4)その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市堺区熊野西3-2-7 ダイワビル 4階	氏名	日鉄住金精鋼株式会社 代表取締役社長 小寺 昭吾
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		冷間圧造用炭素鋼線、磨棒鋼、ビードワイヤー等「線材二次製品の製造及び販売」を行っており、全国で5工場あり、その内 大阪府内に2工場があったがH23年10月に大阪府内高尾工場を事業縮小に伴い本社工場の隣接地に「本社工場 磨棒鋼室」として移設した。その後H26年3月に「本社工場 磨棒鋼室」を閉鎖し、大阪府内1工場で冷間圧造用鋼線の製造及び販売を行っている。又その後H26年10月に「本社工場内 本社機能」を府内に移動した。H29年4月に本社工場→堺工場へ名称変更した。		

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間				
2015年	4月	1日	～	2018年 3月 31日 (3年間)

### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	8,402 t-CO <sub>2</sub>	8,686 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,690 t-CO <sub>2</sub>	8,993 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	1.0%	0.4%	2.1%
削減率(平準化補正ベース)		-	0.4%	1.9%	2.0%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (大阪府内 工場の総生産量(千ト))

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

## ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>温室効果ガス排出量の原単位は、基準年度(H26年度)に対して削減率2.1%となり好転できた。要因としては大きな設備トラブルがなく安定操業ができた事と設備投資(110kwモーターのインバーター化)した結果とみている。今後、高天井照明のLED化等、設備投資しての固定電力削減を務めていきます。</p>
---



(2) 推進体制

堺工場（特定事業所）は2004年度ISO14001を認証取得し、環境対策と省エネに取り組んでいる。全社的には、全社環境チーム会議（2回/年）等で課題を共有し現状改善など検討取り組みをしており、本体制を継続していきます。また、新設・老朽化更新時は、省エネ機器を取り入れ温暖化対策を進めていきます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺工場	コード (1112) 熱・電気使用設備の使用量管理	H27年度以降も使用量の管理と電力節電対応等継続運用する。 (年間 4 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	堺工場	コード (1218) 高効率照明、灯具への更新	工場内の水銀灯を省エネ効果の高い照明設備 (LED高天井用照明器具) に更新する。 (年間 43 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	堺工場	コード (1123) ヒートポンプによる給水温度アップ	高効率な再加熱ヒートポンプ給湯機によりボイラー給水タンクの温度を上げる。 (年間 12 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	堺工場	コード (1125) 熱放散による無駄な燃料消費を削減	蒸気配管・弁類等保温材欠落箇所の取付をす る。 (年間 2 t-Co2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府柏原市河原町1-22	氏名	日鉄住金精密加工株式会社 代表取締役 中村 正法
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		油井管継手および油井管付帯品の受託加工事業、加工販売事業、各種金属および材料の精密機械加工事業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	5,887 t-CO <sub>2</sub>	5,662 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,446 t-CO <sub>2</sub>	6,210 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	7.5 %	2.9 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	7.3 %	3.0 %	3.7 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>設備改善(高効率LED照明への切替、チラーのインバータ化、特別高圧トランスの更新)、運用改善(コンプレッサの最適運転管理等)並びに、設備保全の強化により省電力化を図りました。 今後とも、省エネ活動を推進し、温室効果ガスの排出抑制に努めていきます。</p>
--

(2) 推進体制

温暖化対策は、環境マネジメントシステム（2008年3月認証取得）の中で取り組んでいます。今後とも継続した活動を通じて、温室効果ガスの排出、人工排熱の抑制並びに、電気需要の平準化に努めていきます。

平成26年度より散水システム（気化熱を利用）を導入し、空調負荷の軽減による電気需要の平準化の取り組みを継続しております。今後とも推進してまいります。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	本社・工場	コード (1218) 高効率照明への更新	省エネ効果の高い照明設備（蛍光灯型LED）に更新中。 (年間3 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	本社・工場	コード (1218) 高効率照明への更新	水銀灯からLEDへの切替は平成30年度実施に変更。 高効率セラミックメタルハライドランプへの切替は見合わせ。 (年間1.2 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	本社・工場	コード (1215) 油圧ユニットの低容量化	負荷機械の所要出力に見合った油圧ユニットの低容量化を展開。 平成28年度以降は、経営資源の配分見直しにより中断。 (年間1.2 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	本社・工場	コード (1215) 表面処理乾燥工程のプロワー化	表面処理施設の乾燥工程で使用している圧縮空気をプロワーに切り替える工事は経営資源の配分見直しのため、検討のみ実施。品質面を考慮した再検討を行う。 (年間1.2 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	本社・工場	コード (1215) エアードライヤーのインバータ化	エアードライヤーのインバータ化を実施。 (年間8 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
6	レ GHG排出	本社・工場	コード (1216) 空気調和設備のGHP化	電動機駆動式 (EHP) からガスエンジン駆動式 (GHP) のエアコンに切替実施。 (年間5 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
7	レ GHG排出	本社・工場	コード (1215) ポンプのインバータ化	チラーユニットのインバータ化を平成29年度に実施済み。 (年間14 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
8	レ GHG排出	本社・工場	コード (5112) 照明の間引き	事業所内の照明の間引きの徹底や可能な範囲で窓際の照明の消灯は継続実施中。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
9	レ GHG排出	本社・工場	コード (1122) 空気調和設備の運用改善	空調設備の間欠運転（空調制御機の設置）を平成23年度より運用開始、平成28年度以降も継続し運用中。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
10	GHG排出	本社・工場	コード (4110) 散水システム導入	散水システム（気化熱を利用）を拡張し、スレート屋根からの輻射熱を抑制し、空調負荷の軽減を図った。	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
11	レ GHG排出	本社・工場	コード (1215) 特別高圧トランスの更新	特別高圧トランス老朽更新を平成29年度に実施、無負荷損の削減を図った。 (年間3 t-CO2を削減)	2017 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～

1					年度
---	--	--	--	--	----

(4)その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪市住之江区緑木1-4-16	氏名	日鉄住金ボルテン株式会社 代表取締役社長 大迫 敏也
特定事業者の主たる業種		24金属製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に、橋梁・建築向けの摩擦接合用高力ボルトの製造を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	5,676 t-CO <sub>2</sub>	5,353 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,958 t-CO <sub>2</sub>	5,602 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-5.9 %	-9.0 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-6.2 %	-9.6 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産重量(セット重量) 千ton )

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

摩擦接合用高力ボルトは、ボルト+ナット+座金が1unitとして製品となる為、生産重量として1unit重量を母数として使用します。尚、単品扱いの製品については、単品重量を生産重量に加算し、原単位の母数とします。

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・生産量低下(品種構成、販売減)に対し、固定エネルギーの影響で悪化。</li> <li>・1基の設備異常により修理・品質確認後(非生産)に処理量を減らし操業を再開した為悪化。</li> <li>・冬季に熱処理炉焼入水温維持の為、水冷チラー稼働により悪化。夏季は空冷チラーの散水装置を使用し電力量削減を実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱処理炉</li> </ul>
<ul style="list-style-type: none"> <li>・熱処理炉1基の燃焼調整を実施。</li> <li>・フォークリフト2台(軽油車)をバッテリー車へ更新。</li> </ul>	
<p>電力の小売全面自由化によりH29.8より関西電力(株)から(株)エネットへ契約を変更した。排出係数が違う為、原油換算値は基準年度と変わらないが排出量が下がっている。</p>	

(2) 推進体制

<p>・主要設備運用状況、エネルギー使用状況を、原単位ベースで1回/月品質技術会議で報告する。 目標削減率達成の為、環境安全衛生委員会で毎月の対策の進捗状況、現状改善等を検討・報告する。</p>
---

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場	コード (1112) 原単位管理	・月次のエネルギー消費量と生産量の原単位管理。 ・業務課題報告会にて内容と対策を報告する。(年4回)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	本社工場	コード (1113) 適正稼働率管理	・生産工程の運転稼働率の適正管理 ・電気・ガス使用の平準化	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	本社工場	コード (1114) 適正運転のための保守・点検	・熱処理炉及び変成炉の燃焼管理	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	本社工場	コード (1121) 燃焼効率の確認と適正化	・熱処理稼働の管理(余分な稼働を停止) H29.8燃焼調整実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	本社工場	コード (1216) 空調設備の運用改善	・冷暖房の温度設定の最適管理 ・クールビズ、ウォームビズ実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	本社工場	コード (1217) 給湯設備の管理	・スケジュール管理を行い、余分な湯を沸かささない	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	本社工場	コード (1218) 消費電力の削減	・省エネ対応の照明に随時変更 水銀灯・メタルハライド・蛍光灯をLED H28.3 製造事務所LED化	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	本社工場	コード (1221) 搬送機器の改善	・フォークリフトの燃料の変更(軽油車からバッテリー車へ変更) H27.5 ガソリン車→バッテリー車更新 H29.11 軽油車→バッテリー車更新(2台)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	本社工場	コード (5112) ピークカット	昼休憩時に事務所、現場の照明を切る(節電)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	本社工場	コード (5121) 交代勤務(シフト変更)	夏季のピーク電力を抑える為、昼間の稼働を減らし、夜間の稼働を増やす。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	本社工場	コード (5221) 効率改善	・老朽設備を高効率機器へ更新(変圧器など) H28.12 変圧器更新(トッランナー)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場	コード (2112) 燃料使用量の把握	月単位での燃料の使用量(補給量)を管理	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2	レ	GHG排出	本社工場	コード (2121) 低燃費車への更新	・ハイブリット車などの低燃費車への更新。 (リース車を使用している為、契約満了時に随時更新)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者	住所	大阪府豊中市服部寿町5丁目154-1	氏名	株式会社 日邦リンクシステム 代表取締役 岩本博康
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		リンク事業、カーシェアリング事業、駐車場運営		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	2,316 t-CO <sub>2</sub>	625 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	2,220 t-CO <sub>2</sub>	630 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	5.3 %	-11.2 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	%	71.7 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>低燃費車両(ハイブリット車両)の導入が進みました。</p>
----------------------------------



(2) 推進体制

当社はレカ-事業を行っていますので、車両入替の際は低燃費車の導入を推進していきます。  
又、駐車場運営も行っていますので、そこを拠点としたカーシェアリングの推進をします。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
	平準化				年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
					年度

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者	住所	東京都中央区八重洲 1-2-16	氏名	株式会社 NIPPPO 代表取締役社長 吉川 芳和
特定事業者の主たる業種		6総合工事業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		道路舗装工事用アスファルト合材の製造（舗装材料製造業）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	4,353 t-CO <sub>2</sub>	112 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,498 t-CO <sub>2</sub>	134 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	%	%	%	%
	レ	3.8 %	-0.1 %	-3.1 %	%
削減率(平準化補正ベース)		-	-0.3 %	-3.3 %	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 製造数量 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>前年度は、主な事業所が分社化し製造数量が0tとなることから削減率は算出できませんが、主な事業所以外でのエネルギー使用量は、照明器具のLED化の効果もあり基準年度に対して△17.8%と大幅に削減することができた。</p>
--

(2) 推進体制

全社で共通の環境方針を掲げ、地球温暖化対策への取り組みを実施するものとし、事務所ごとのエネルギー使用量の管理を共有することにより全従事者が意識をもって温室効果ガス排出の削減に努めていきます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (0) 照明の間引き	事務所内の照明の間引きや可能な範囲での昼間の消灯を徹底させる。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (0) 経年的なエネルギーのデータ管理	パソコンによるデータ管理を毎月行いエネルギー使用量の見える化を実施する。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	堺合材工場	コード (0) 着火回数管理・低燃費製造	連続運転・含水比管理を徹底し、燃費・電力の効率化を図る。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	堺合材工場	コード (0) 室内温度管理者を決め、推進する	冷暖房の温度管理を日々管理し、事務所電気の省エネ化を推進する。	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ~ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大東市氷野 2 丁目 3 番 7 号	氏名	ニッポー株式会社 代表取締役社長 内田雅典
特定事業者の主たる業種		18プラスチック製品製造業（別掲を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 1 号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 2 号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第 3 条第 3 号イ又はロに該当する者	
事業の概要		プラスチックのシート生産から最終製品まで一貫して製造するプラスチック成型加工業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	7,999 t-CO <sub>2</sub>	8,180 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	8,862 t-CO <sub>2</sub>	9,091 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	削減率(原単位ベース)	3.0 %	7.9 %	9.0 %
削減率(平準化補正ベース)		-	7.5 %	8.8 %	15.1 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(加工賃)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成 29 年度は、対策計画に基づき照明設備、蛍光灯の LED 化及び空調機、変圧器の高効率機器への更新に取り組み、第 3 年度原単位削減率は 15.3 % と、前年 9 % を大きく上回った結果となりました。</p>
--

(2) 推進体制

地球温暖化防止のため、全社をあげて環境マネジメントシステムの推進に向け取り組んでいます。現在、社長をトップとする環境委員会による、月1回開催される定例会議により、毎月のエネルギー使用量実態及びエネルギー削減計画に基づく対策の実施状況及び削減実績を発表し、委員会メンバーに対する情報の共有化を図っています。今後も引き続きエネルギー使用量削減へ向けての取組みを実施して参ります。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全工場	コード (1215) 高効率照明器具 導入	高効率の照明器具の導入 (3年間で13t-CO2を削減) H29年実績: 42.7t-CO2削減	2015年度 ~ 2017年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全工場	コード (1215) 高効率空調機導 入	高効率の空調機の導入 (3年 間で31t-CO2を削減) H29 年実績: 19.2t-CO2削減	2015年度 ~ 2017年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全工場	コード (1215) 高効率コンプ レッサー導入	高効率のコンプレッサーの導入 (3年間で70t-CO2を削減) H29年実績: 17.2t-CO2削減	2015年度 ~ 2017年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全工場	コード (1215) 高効率変圧器導 入	高効率の変圧器の導入 (3 年間で17t-CO2を削減) H29年実績: 19.4t-CO2削減	2015年度 ~ 2017年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	本社工場	コード (1215) シート成型機 ヒーター部保温	シート成型機ヒーター部保温による電力削減 (3年間で27t-CO2を削減) H29年実績: 実績なし	2015年度 ~ 2017年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全工場	コード (1199) 生産性効率改善	ロス削減活動による生産効率改善 (3年間で141t-CO2を削減) H29年実績: 12.0t-CO2削減	2015年度 ~ 2017年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全工場	コード (1114) 空調設備管理強 化	空調設備の管理基準値に基づき管理強化により電力削減 (3年間で86t-CO2を削減) H29年実績: 14.5t-CO2削減	2015年度 ~ 2017年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全工場	コード (2121) 低燃費車導入	低燃費車の導入 (3年間で7t-CO2を削減) H29年実績: 実績なし	2015年度 ~ 2017年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全工場	コード (2123) エコドライブの 推進	エコドライブの推進 (3年間で11t-CO2を削減) H29年実績: 1.6t-CO2削減	2015年度 ~ 2017年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全工場	コード (2126) 輸送の効率化推 進	輸送の効率化推進 (3年間で10t-CO2を削減) H29年実績: 実績なし	2015年度 ~ 2017年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

		東京都千代田区神田練塀町3番地 富士ソフトビル 4F		ニッポンレンタカーサービス株式会社 代表取締役社長執行役員 荒幡義光
届出者		住所	氏名	
特定事業者の主たる業種		70物品賃貸業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		レンタカー・リースカー事業		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間				
2015年	4月	1日	～	2017年 3月 31日 (3年間)

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	6,042 t-CO <sub>2</sub>	3,461 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	0 t-CO <sub>2</sub>	0 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ	9.2%	1.3%	18.7%	43.3%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	%	%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 車両台数 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

ハイブリッド車への切替・増車により、温室効果ガスを削減することができた。
--------------------------------------

(2) 推進体制

エコファースト企業として従業員はエコドライブ研修を含んだ安全運転研修に参加し、お客様にもアイドリングストップ及びエコドライブを啓蒙し、また行き先、乗車人数、荷物量に連動したムダの無い最適なクルマの提案、ハイブリッド車両など環境対応車両ご利用の推奨など、貸渡に際し常に環境に配慮した対応を心がけてまいります。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
	平準化				年度

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度
	人工排熱				～
					年度

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	東京都中央区日本橋箱崎町19-21	氏名	日本アイ・ビー・エム株式会社 代表取締役 アリアザー・キーン
特定事業者の主たる業種		39情報サービス業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		情報システムに関わる製品、サービスの提供		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	20,283 t-CO <sub>2</sub>	16,974 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	21,984 t-CO <sub>2</sub>	18,341 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	1.4 %	1.6 %	5.1 %
削減率(平準化補正ベース)		-	1.5 %	2.6 %	5.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (延床面積 (変換面積) )

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

各事業所のCO<sub>2</sub>排出量を基に重み付けを行った各事業所の延べ床面積を基準に算出します。  
また、一部の事業所においては、年間電気使用量を前年度と比較した数値をパラメーターとして組み込んでいます。

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>主な事業所において、継続的な省エネ活動を推進しており、フリークーリング、エコターボ冷凍機、電算室内の空調機の稼働管理、電算室の照明の消灯の徹底、電算室のサーバー機器の集約化に取り組んでおり、温室効果ガス排出量の削減に基準年よりも改善することができた。引続き今後も引続き温室効果ガス削減に企業努力していきます。</p>
---



(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>企業倫理に基づく環境リーダーシップを積極的に追求します。  <a href="http://www-06.ibm.com/ibm/jp/company/environment/index.html">http://www-06.ibm.com/ibm/jp/company/environment/index.html</a></li> <li>大阪地区においては、既に取得しているISO14001の活動を継続的に実施することにより、地域社会への貢献、環境保護の推進を図ります。</li> </ul>
---

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	すべての事業所	コード (1111)	ISO14001の継続した活動を通じて、エネルギー等の削減活動を従業員に啓蒙。また、地元地域社内と一体となり、クリーンキャンペーンも実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱		ISO14001活動の継続と維持		
	平準化				
2	GHG排出	大阪南港事業所	コード (1126)	ターボ冷凍機更新により、高効率、省エネ型の冷凍機を採用。	2018 年度 ～ 2020 年度
	人工排熱		設備更新による省エネ		
	平準化				
3	GHG排出	大阪南港事業所	コード (1216)	サーバーラック内へのブランクパネルを設置し、気流改善を図ることによる省エネの実現。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱		気流改善による省エネ		
	平準化				
4	GHG排出	大阪本町事業所	コード (1218)	LED照明の採用。	2014 年度 ～ 2014 年度
	人工排熱		省エネ照明の採用		
	平準化				
5	GHG排出	大阪南港事業所	コード (1218)	LED誘導灯の採用。	2018 年度 ～ 2020 年度
	人工排熱		省エネ照明の採用		
	平準化				
6	GHG排出	大阪中之島事業所	コード (1218)	モーションセンサの採用による照明自動点滅	2017 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱		省エネ照明の採用		
	平準化				
7	GHG排出	大阪中之島事業所	コード (1199)	オフィスでパソコンでの作業が主であり、作業場の明るさに問題がない為、ビル標準より照明照度を下げる。	2017 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱		運用による照明の省エネ		
	平準化				
8	GHG排出	大阪南港事業所	コード (1199)	電算室用空調機の稼働台数の適正化	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱		運用による空調機の省エネ		
	平準化				
9	GHG排出	大阪南港事業所	コード (1199)	電算室内照明の消灯の徹底	2016 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱		運用による照明の省エネ		
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者	住所	東京都中央区日本橋本石町2-1-1	氏名	日本銀行 総裁 黒田 東彦
特定事業者の主たる業種		62銀行業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		中央銀行業		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	6,188 t-CO <sub>2</sub>	5,885 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,798 t-CO <sub>2</sub>	6,581 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	15.4 %	28.2 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	%	14.3 %	27.0 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>運用面では、夏季・冬季における空調設定温度の変更、夏季期間中における給湯停止等の対策を実施。また、環境省、大阪市のライトダウンキャンペーンなど、温室効果ガス抑制イベントに全店をあげて参加。</p>
---

(2) 推進体制

<p>店内横断的な組織として、「省エネ検討部会」を設け、年間数回省エネ実現に向けた各種施策に関する検討を行っているほか、同部会の下部組織として各種設備等管理部署に「省エネワーキンググループ」を設け、毎月1回、各種エネルギー使用量のフォローアップや身の回りの省エネに関する改善施策の検討を行っている。</p>
<p>職員の省エネ意識の向上を図る観点から、行内メールシステムを利用した情報発信を実施（年数回、定期的な情宣を予定）。</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	日本銀行大阪支店	コード (1218) 省エネ効果の高い設備の導入	照明器具の蛍光灯タイプをLED照明に変更および台数削減 (86台) 電気容量8k w→2k w	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	日本銀行大阪支店	コード (1215) UPS電源装置装置容量見直し	UPS電源装置装置容量見直し 400kVA*3→300kVA*3	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者	住所	東京都千代田区大手町1-3-7	氏名	株式会社 日本経済新聞社 代表取締役社長 岡田直敏
特定事業者の主たる業種		41映像・音声・文字情報制作業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に日刊新聞の発行及び自社所有のテレビ局ビル・テナントビル・新聞印刷工場・大型新聞販売店の維持管理。 新聞発行所 (2) テレビ局 (1) テナントビル (2) 大型新聞販売店 (5)		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)
---------	---------------------------------

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	8,872 t-CO <sub>2</sub>	8,534 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,813 t-CO <sub>2</sub>	9,415 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	1.7%	5.0%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	2.1%	5.6%	4.1%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

3%以上の削減が達成された。次年度も一層の削減に努めたい。
-------------------------------

(2) 推進体制

日本経済新聞社では、2007年11月に「日経環境宣言」を発表し温暖化防止に取り組んでおり、日経エコプロジェクトを発足させた。クールビズ・ウォームビズを始め多くの省エネ策を実施しCO2削減に取り組んでいる。又、全社的な組織として日経環境対策委員会も設置し、より一層の省エネを推進させる体制を作った。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪本社・日 経南港別館・ テレビ大阪・ 大手前別館	コード (1112) エネルギーの使用 に関するデータ 管理	中央監視盤システムにおいて毎時・毎日・毎月 の使用電力量・冷温水温度・各室温湿度を監視 (管理)した。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪本社・日 経南港別館・ テレビ大阪・ 大手前別館	コード (1113) 運転管理	熱源機器は負荷の状況・冷温水温度を監視(管 理)しながら適正運転台数の維持するよう努め た。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪本社・大 手前別館	コード (1113) 運転管理	館内設置のビルマルチエアコンは、集中管理盤 にて運転時間・設定温度等を監視し、むだな運 転にならないよう運転管理を実施した。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大手前別館・ 南港別館	コード (1113) 運転管理	コンプレッサーは、台数制御盤を設け必要圧 力・容量を確保するとともに適正な運転台数を 維持し不要な機器の停止をはかった。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	大阪本社・日 経南港別館・ 大手前別館・ テレビ大阪	コード (1114) 定期保守整備	空調機・パッケージエアコンは定期的にフィル ター交換・フィン、ファンの洗浄を実施した。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	日経今橋ビル	コード (1114) 定期保守整備	空調機・パッケージエアコンは定期的にフィル ター交換・フィン、ファンの洗浄を実施した。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	大手前別館・ 日経南港別 館・テレビ大 阪	コード (1114) 定期保守整備	冷凍機は、凝縮器内スケールの除去。冷却塔充 填材のスケール除去及び洗浄を定期的実施し た。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	大阪本社・大 手前別館・日 経南港別館・ テレビ大阪・ 今橋ビル	コード (1114) 定期保守整備	照明器具の定期的清掃を実施し、照度を確保し た。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	大阪本社・大 手前別館・日 経南港別館・ テレビ大阪・ 今橋ビル	コード (1114) 定期点検	空調機器は、定期的に巡回点検を実施し、電 圧・電流・送風温度・ベルトの滑り具合等を チェックしエネルギーロスがないよう保守管理 に努めた。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	大阪本社・日 経南港別館・ テレビ大阪・ 今橋ビル	コード (1114) 定期点検	各室照度については定期的に照度測定を実施 し、基準照度を下回る場合は、光源の交換を実 施し照度確保に努めた。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	大手前別館・ 日経南港別館	コード (1114) 定期点検	コンプレッサーについては定期的に点検を実 施し、運転電流・発生圧力・Vベルトの張り等 をチェックしエネルギーロスのないよう保守管 理に努めた。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

---

(4)その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者		住所		氏名	
		神奈川県横浜市西区みなとみらい4-4-5 横浜アイマークプレイス		日本ケンタッキー・フライド・チキン株式会社 代表取締役社長 近藤正樹	
特定事業者の主たる業種			76飲食店		
該当する特定事業者の要件			レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
				大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
				大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要			フライドチキンを中心とした他飲食物の店内提供とお持ち帰り及び一部宅配提供で販売		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	5,922 t-CO <sub>2</sub>	5,118 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	6,747 t-CO <sub>2</sub>	5,793 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (0 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)	
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	%	%	%	
		削減率 (原単位ベース)	3.0 %	10.6 %	11.3 %	20.0 %
削減率 (平準化補正ベース)		-	%	10.8 %	11.7 %	20.5 %
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 大阪府内店舗の総売上金額 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成29年度は事業売上が基準年度比100.8%と伸長したが、エネルギー使用量(原油換算量)は基準年度比20%にコントロールした事が温室効果ガス発生を抑制できた大きな要因であり、結果的にCO2発生原単位が基準年度より20.5%低減できた。</p> <p>事業所内において日々の効率的なエネルギー使用は継続実施されている (こまめに室温調整、営業時間前後の照明/空調のスイッチコントロール、空室事務所等の照明/空調の電源off 等)</p>
---

(2) 推進体制

<p>・本社における社長直轄の省エネルギー担当者及び各店舗の省エネルギー推進責任者である店長を中心として、店舗エネルギーの配信データ精度向上に向けた推進活動を継続して行うとともに、空調機設定温度のこまめな調整、照明の間引き、不要な電源OFF等の省エネ活動を推進し、さらにこの取組の進捗を定期的にチェックすることで確実に浸透させていきます。</p>
<p>・また、空調機、冷蔵庫、冷凍庫、調理機器等の設備機器に関しては、機器更新のタイミングで省エネルギー仕様のトップランナー機種を優先的に導入して、ハード面の省エネを推進していきます。</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全店舗	コード (1111) 各店舗に省エネ推進担当者を設置	省エネ推進担当者へ定期的に省エネ教育を行うていくことにより、拠点ごとの指導強化を図り、エネルギーの高効率使用の向上を図る	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全店舗	コード (1112) 店舗によるデータ入力精度アップ	店舗で入力するエネルギーデータの誤入力及び未入力等の有無をチェックし、入力情報を店舗へフィードバックすることにより入力精度の向上を促す	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3		GHG排出	全店舗	コード (1113) 管理標準を配布し実施状況を定期チェック	各店舗に省エネ法に基づく管理標準を配布して作業の平準化を促し、進捗状況を定期的にチェックして見直しを行っていく事により、徹底度を上げていく	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全店舗	コード (1218) 照明設備の導入	更新のタイミングで効果の高い照明設備 (Hf蛍光灯ランプ、LEDライト等) に変更する	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全店舗	コード (1215) 冷凍・冷蔵庫の導入	更新のタイミングで省エネ効果の高いトップランナーの冷凍・冷蔵設備に変更する	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	全店舗	コード (1216) 空気調和設備の導入	更新のタイミングで省エネ効果の高いトップランナーの空気調和設備に変更する	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全店舗	コード (5112) 照明の間引きや点灯時間管理	店舗の照明の間引きや看板照明、厨房等の点灯の時間管理を徹底する	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	全店舗	コード (5111) 店舗別、時間帯別空調温度の設定及び実施	条件の異なる店舗のエリア別、時間帯別空調温度を各々設定し、空調の適切な温度管理を行う	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策




# 実績報告書

届出者	住所	大阪市西区新町3丁目14番13号	氏名	日本交通株式会社 代表取締役 澤 志郎
特定事業者の主たる業種		43道路旅客運送業		
該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		主にタクシー、バスの旅客運送事業を行っており、タクシーは大阪府下に大阪 市域交通圏、北摂交通圏、泉州交通圏の営業区域をもち6営業所で363両を 運行。バスは、貸切で大阪府、京都府、奈良県に営業区域をもち、うち大阪府 では2営業所で190両を運行。		

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	19,179 t-CO <sub>2</sub>	16,167 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	19,292 t-CO <sub>2</sub>	16,269 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	6.0 %	12.0 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	6.0 %	12.0 %	15.7 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

## ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・タクシー、バスの走行距離が大幅に減少した。</li> <li>・タクシー車両がLPG車からエネルギー効率の高いハイブリッド車へ多く代替した。</li> </ul> <p>以上の点が、エネルギー使用量総量の減少に影響したと思われます。</p>
--

(2) 推進体制

省エネルギーの、進捗状況を把握するとともに、各車両毎の燃費を比較し、燃費の良いくない車両について改善策を検討していく。またエコドライブについての啓蒙活動を推進していく。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1122) 加熱・冷却の合理 化	冷房温度28℃・暖房温度20℃の励行	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (1126) 電気の動力等へ の変換の合理化	こまめに照明設備のスイッチオフ 事務機器の不要時の電源オフ	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	タクシー 事業所 (NO. 11~ 16)	コード (2121) 低燃費車の導入	燃費の悪い低年式車両を順次代替していく	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	タクシー 事業所 (NO. 11~ 16)	コード (2121) 低燃費車の導入	ハイブリッドカーを導入する	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	バス 事業所 (NO. 17~ 18)	コード (2121) 低燃費車の導入	トップランナー基準達成車を順次導入していく	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	バス 事業所 (NO. 17~ 18)	コード (2224) 輸送効率の向上 に向けた協力	他営業所と連携し、回送距離を少なくするよう 配車の努力を行う	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
5	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブの 推進	エコドライブについての啓蒙活動を推進してい く	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				
6	レ	GHG排出	全事業所	コード (2112) エネルギーの使 用に関するデー タ管理	各車両毎の燃費を把握し、指導できる体制を構 築する	2015 年度 ~ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

	届出者	住所 大阪府茨木市中穂積2-1-5	氏名	一般社団法人日本自動車連盟 大阪支部 事務所長 澤村 章
特定事業者の主たる業種		95 その他のサービス業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>交通知識の向上と交通安全の推進を図り、会員の自動車使用上の権益を擁護し、かつ各種便益を提供すると共にあわせて自動車を通じて国際親善と自動車スポーツの健全な発展につとめ、もって公共の福祉に寄与する事業の推進。自動車の使用に係わるサービスの提供。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	739 t-CO <sub>2</sub>	1,331 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	739 t-CO <sub>2</sub>	1,412 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	3.0 %	-42.7 %	-33.7 %
		削減率 (原単位ベース)	%	%	%
削減率 (平準化補正ベース)		-	%	-47.0 %	-38.6 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>H26年度を基準年度とする対策計画書で電力量の入力が漏れており、H27年度以降の実績報告書では電力量を入力したため、CO<sub>2</sub>排出量はその分増加しました。  H28年度とH29年度の各々のCO<sub>2</sub>排出量と比較すると下記のとおりです。  (H28) 自動車: 692 t-CO<sub>2</sub> 電力: 296 t-CO<sub>2</sub>  (H29) 自動車: 746 t-CO<sub>2</sub> 電力: 509 t-CO<sub>2</sub>  自動車については長距離の移動が増えた為、8%CO<sub>2</sub>排出量が増加し、電力については関西コールセンターが新設されたため、72%CO<sub>2</sub>排出量が増加しました。</p>
<p>シートベルトコンビンサー、機材運搬車以外がエコ車両に代替済となりました。  今後もエコ運転の推進をはじめ一層の環境配慮行動の実施・省エネルギー型機器への代替を進め、温室効果ガス排出削減に努めていきます。</p>

(2) 推進体制

環境マネジメントシステムの導入をしており、大阪府内においては2拠点でISO14001の認証取得。毎月の紙・ごみ・電気・ガスの計測結果に基づき、進捗状況の報告書作成と現状改善等の検討を行い、3カ月毎に本部E M S マネージメント推進室へ報告する。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西本部・大阪支部	コード (1218) 照明設備の導入	省エネ効果の高い、Hf蛍光ランプを継続して使用する。 ガラス面に断熱フィルムを施工する。 順次LED電灯へ切り替え終了。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	天保山事務所	コード (1218) 照明設備の導入	省エネ効果の高い、Hf蛍光ランプを継続して使用する。 ガラス面に断熱フィルムを施工する。 順次LED電灯へ切り替えをする。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	関西研修センター	コード (1218) 照明設備の導入	省エネ効果の高い、Hf蛍光ランプを継続して使用する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	関西コールセンター	コード (1218) 照明設備の導入	省エネ効果の高い、Hf蛍光ランプを継続して使用する。	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	関西本部・大阪支部	コード (2121) 車両代替え時にハイブリッド車を導入する。	代替え時に軽自動車・ハイブリッド車を導入する。 推進団体としてドライバーの見本となり、全車がエコドライブを推進する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	天保山事務所	コード (2121) 車両代替え時にハイブリッド車を導入する。	代替え時に軽自動車・ハイブリッド車を導入する。 推進団体としてドライバーの見本となり、全車がエコドライブを推進する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	関西研修センター	コード (2114) 日常点検、法定点検の実施	エンジンオイルを定期的に交換し、運行前点検や法定点検を実施する。 推進団体としてドライバーの見本となり、エコドライブを推進する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
4		GHG排出	関西コールセンター	コード (0)	車両無し	年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

車両の適正配置を行い、減車を行う。  
軽自動車への代替を行う。  
拠点の適正配置の為、移転、統廃合の検討を行う。  
作業後、事務所へ帰らずに近辺待機を行い次の仕事の入電を待ち、無駄な走行を減らす。

## 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区高麗橋4-1-1 興銀ビル	氏名	株式会社日本触媒 代表取締役社長 五嶋 祐治朗
特定事業者の主たる業種		16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当社は、主としてアクリル酸や酸化エチレン等の化学工業製品を製造、販売している。 大阪府内では、大阪本社、吹田地区研究所があります。		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	5,564 t-CO <sub>2</sub>	5,996 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	6,175 t-CO <sub>2</sub>	6,641 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
	レ	削減率(原単位ベース)	%	0.1 %	8.3 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	0.2 %	8.2 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 延床面積 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

2016年7月より新設した研究棟の運用を開始しました。温室効果ガスの排出量は増床に伴い基準年度より増加いたしました。省エネを考慮した設計のため原単位ベースでは削減することが出来ました。また、2017年度は通年での運用となるため、温室効果ガスの増加が予想されましたが、省エネ対策の推進により2016年度に比べ排出量を減らすことが出来ました。その結果、基準年より9.3%(原単位基準)削減となりました。
---

(2) 推進体制

全社的に地球温暖化防止を含んだレスポンスブル・ケア活動を推進しています。  
 全社レスポンスブル・ケア活動を推進するために、社長を委員長とするレスポンスブル・ケア推進委員会を年2回開催しています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪本社	コード (1216) 冷暖房の管理	冷房の設定温度28℃、暖房の設定温度20℃の徹底 (年間1t-CO2削減)	2015年度 ～ 2017年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	吹田地区研究所	コード (1215) トランスの更新	動力トランス及び電灯トランスの更新 (年間13t-CO2削減)	2015年度 ～ 2015年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	吹田地区研究所	コード (1215) トランスの更新	動力トランスの更新 (年間8t-CO2削減)	2015年度 ～ 2015年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	吹田地区研究所	コード (1215) トランスの更新	動力トランス及び電灯トランスの更新 (年間1t-CO2削減)	2015年度 ～ 2015年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	吹田地区研究所	コード (1216) 省エネモード増設	クリーンルーム用空調機省エネモード増設 (年間102t-CO2削減)	2015年度 ～ 2015年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	吹田地区研究所	コード (1216) 省エネモード増設	クリーンルーム用空調機省エネモード増設 (年間169t-CO2削減)	2016年度 ～ 2016年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	吹田地区研究所	コード (1215) トランスの更新	動力トランス及び電灯トランスの更新 (年間22t-CO2削減)	2017年度 ～ 2017年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	吹田地区研究所	コード (1216) 省エネモード増設	クリーンルーム用空調機省エネモード増設 (年間97t-CO2削減)	2017年度 ～ 2017年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

		大阪府豊中市千成町1-6-64		日本新金属株式会社
届出者	住所		氏名	取締役社長 岡田 義一
特定事業者の主たる業種		23非鉄金属製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		粉末冶金用素材、溶解冶金用素材、化学用素材及び表面硬装用素材の設計・開発及び製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	10,918 t-CO <sub>2</sub>	11,887 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	11,963 t-CO <sub>2</sub>	13,032 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-5.0 %	0.7 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-5.0 %	0.5 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 当社製品生産量 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成27年度は、ボイラー更新と廃熱回収による熱効率向上を行った。三田分工場との工程統合により炉設備が増加したが生産数減少のため原単位の悪化を招き、温室効果ガスの削減に至らなかった。</p> <p>平成28年度は、電気炉設備の修理減による立ち上げ電力ロスが低減されたため、生産量増加したにもかかわらず温室効果ガスが減少したため削減できた。</p> <p>平成29年度は、エネルギー消費量の多い製品群の生産量が増加した為、温室効果ガスの削減に至らなかった。</p>
---

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全社的に地球温暖化対策に取り組むため環境マネジメントシステムの導入を更に進める。</li> <li>・省エネルギー委員会及び空調機検討委員会（経過年数による計画的な空調機の更新検討）において、電力需要平準化対策の検討をするとともに全体の省電力化の実施を推進する。</li> </ul>
--

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	日本新金属(株)	コード (1216) 空調設備の更新	老朽化設備の順次更新 (1KL/台年低減)	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	日本新金属(株)	コード (1122) 既存炉の断熱改善	既存炉体断熱改善 (2KL/台年低減)	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	日本新金属(株)	コード (1122) 新規断熱強化炉の導入	新規断熱強化炉の導入 (3KL/台年低減)	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	日本新金属(株)	コード (1217) ボイラー更新	厚生棟給湯用ボイラー更新 (8.84kL/年削減)	2018 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	日本新金属(株)	コード (5221) 油圧ポンプインバーター化	11tプレス機油圧ポンプインバーター化 (4.3kL/年削減)	2018 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	日本新金属(株)	コード (1125) 断熱効率向上	大型還元炉(6炉)断熱方法検討による断熱効率の向上(30.3kL/年削減)	2018 年度 ～ 2019 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	日本新金属(株)	コード (1216) 空調設備更新	各工場空調設備更新 (1.0kL/年削減)	2017 年度 ～ 2019 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	日本新金属(株)	コード (2113) 運行管理	運行台帳にて管理 (燃料量、燃費等)	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	日本新金属(株)	コード (2121) 低燃費車の導入	平成25年度より2台のハイブリット車を導入継続して使用	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策




## 実績報告書

		大阪府堺市堺区匠町20番地1		日本伸銅株式会社
届出者	住所		氏名	代表取締役社長 原田 孝之
特定事業者の主たる業種		23非鉄金属製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		非鉄金属製造業（黄銅棒、黄銅線、黄銅鍛造品）		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	15,061 t-CO <sub>2</sub>	13,052 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	16,769 t-CO <sub>2</sub>	14,142 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.1 %	14.2 %	24.4 %
削減率(平準化補正ベース)		-	16.6 %	26.5 %	22.7 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 生産量 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>H28年度と比較すると生産量が27千t→24千tと大きく下がってしまった為、生産効率が下がる事で、H28年度よりも原単位が悪化してしまいました。しかし計画期間では、H27年度に外部コンサルティングを導入し、大きな省エネ活動を行った事が大きな効果となり、大幅な原単位削減を実現できております。</p>
--

(2) 推進体制

ISO14001を認証取得しており、その中で重点推進項目の主要エネルギーの電気、ガスの有効利用に取り組んでいます。  
1年に1度、省エネ、生産効率UPを主体とした改善発表会を実施しており、上位部署には表彰という形で、全社的に省エネ活動を推進しております。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	日本伸銅(株)堺工場	コード (1199) 運用の改善	酸洗い設備送水ポンプの間欠運転化によるポンプ運転時間の削減。 H27年度完了28t-CO2削減完了。	2015 年度 ～ 2015 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	日本伸銅(株)堺工場	コード (1199) 運用の改善	酸洗い設備ボイラー使用頻度の削減 (熱風乾燥用途の蒸気を止める) H27年度完了年間30t-CO2削減完了。	2015 年度 ～ 2015 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	日本伸銅(株)堺工場	コード (1114) 無駄の排除	工場全体のエア・漏れ箇所の調査改修及び早期改修の徹底 年間7t-CO2削減。 今後も継続。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	日本伸銅(株)堺工場	コード (1199) 運用の改善	コンプレッサ電力の削減 (各所に設置されているコンプレッサから比電力費の低い台数制御+INV機のエアに切替) H27年度完了年間58t-CO2削減完了。	2015 年度 ～ 2015 年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	日本伸銅(株)堺工場	コード (1199) 運用の改善	酸洗い湯洗槽の給水を常時給水から間欠給水にすることで、温調用ボイラーの都市ガス使用量削減。 14t-CO2削減完了。	2016 年度 ～ 2016 年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	日本伸銅(株)堺工場	コード (1199) 運用の改善	負荷率の低いボイラー2基を1基に集約して使用する事によりエネルギー使用効率UP、無駄を省く。 7t-CO2削減完了。	2016 年度 ～ 2016 年度
	人工排熱				
	平準化				
7	GHG排出	日本伸銅(株)堺工場	コード (1199) 運用の改善	工場用コンプレッサの休日 (非稼働日) の停止により電力の無駄を省く。 31t-CO2削減予定。 再検討した結果、実施にあたり障害が多く、効	2016 年度 ～ 2016 年度
	人工排熱				
	平準化				
8	GHG排出	日本伸銅(株)堺工場	コード (1199) 運用の改善	冷却水送水ポンプの開閉不良の多いアト弁を別タイプのメンテナンス性の良い物へ取替し、休日に冷却水ポンプを停止できるようにする。 17t-CO2削減予定。	2016 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
9	GHG排出	日本伸銅(株)堺工場	コード (1299) 無駄の排除	加熱炉計器冷却等に使用されている工場コンプレッサからのエアローをエア単価の低いプロ2台による送風に切替える事で電気使用量削減を行う。 52t-CO2削減完了。	2016 年度 ～ 2016 年度
	人工排熱				
	平準化				
10	GHG排出	日本伸銅(株)堺工場	コード (1113) 効率管理	溝型溶解炉閉塞率管理による溶解効率低下防止 年間43t-CO2削減予定。	2017 年度 ～ 2020 年度
	人工排熱				
	平準化				
11	GHG排出	日本伸銅(株)堺工場	コード (1199) 運用の改善	各主要設備サイクルタイム短縮による生産効率向上 年間43t-CO2削減予定。	2017 年度 ～ 2020 年度
	人工排熱				
	平準化				
12	GHG排出	日本伸銅(株)堺工場	コード (1125) 熱効率向上	縦型铸造設備、樋予熱バーナーの効率UP。 バーナー種類変更、保温効果をアップさせ、ガス使用量削減を図る。 年間14.6t-CO2削減予定。	2017 年度 ～ 2018 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
-----	--------------------------	------	------	-------	---------------

1		GHG 排出		コード		年度 ~ 年度
		人工排熱				

(4)その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府岸和田市臨海町11番地	氏名	日本スチール株式会社 代表取締役社長 中井 健
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		熱間圧延による、主に平鋼、角鋼の生産及び販売を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	17,545 t-CO <sub>2</sub>	17,524 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	18,062 t-CO <sub>2</sub>	18,105 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	-2.4 %	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	5.2 %	9.3 %	9.7 %	8.8 %
削減率(平準化補正ベース)		-	8.9 %	9.2 %	8.5 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>基準年度の平成26年度9月に加熱炉の老朽したバーナー全台更新と小ロットに対応する為の制御器一式更新を行って以降、平成29年度も引き続き新システムを使用した生産サイズや材料毎に燃焼パターンの最適化を続け、改善効果を維持しています。しかし、前年度生産量は月平均で基準年度(9月生産無し)並みとなりましたが、昨今の高付加価値・高級品質の市場ニーズに応える為、特に前年度から品質最重視となり平成28年度に比べ生産t/hが2%減少しました。</p>
<p>それでも生産量を確保する為に操業時間が長くなり、平成28年度に比べると燃料・電力共に増加となっています。</p>

(2) 推進体制

社長をリーダーとした省エネ対策アクションプログラムを実施。毎月1回省エネ対策に関する検討会を行い、電力量、加熱炉ガス使用量の現状改善の検討、対策の進捗状況報告を実施。また自製の省エネポスターを定期発行し社員に意識啓発しており本体制を継続していきます。ハード面では多品種小ロット、高付加価値・高級品質生産化がさらに進んでおり、生産性の低下に伴う待機中のエネルギー消費に着目し、加熱炉保熱制御の最適化、低圧動力電源の電圧の安定・適正化、各種照明・空調などユーティリティ関係の先端機器への更新を推進します。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	本社工場	コード (1113) 圧延稼働率向上による空燃焼の減少	多品種小ロット生産に対応し、圧延工程の準備・事故時間の減少で稼働率向上による空燃焼時間、待機電力の削減を推進する	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	本社工場	コード (1112) 工場内消費電力量見える化による系統管理	主要な電気設備の電力常時監視・記録を自動で行い、ムダ電力を探し対策に繋げる	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	本社工場	コード (1215) 圧延ラインエアパージ省エネノズル化	圧延ライン上でスケール除去に使用しているエアパージノズルを省エネ型に取り替え圧縮空気の消費量を抑える	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	本社工場	コード (1114) 工場内圧縮空気漏れ調査器導入	工場内の圧縮空気駆動機器、配管、水分分離器等周辺の漏れを探索するための超音波式のエア漏れチェッカーを導入。月1回検査を行う	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	本社工場	コード (1113) 使用しない機器の停止	照明灯、ポンプ、ファン、モーターの不使用时の停止。平成18年より順次対象機器を増やし実施継続中	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	本社工場	コード (1218) 40W蛍光灯のLED化	工場内の各話所、電気室などに使用している40W蛍光灯約140灯をLED灯に取り替える。平成27年度は計画を超え、161灯交換実施済 平成29年度に44灯交換実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	本社工場	コード (1218) 天井照明400W水銀灯全台LED化	工場内の天井照明などに使用している400W水銀灯を全灯LED灯に取り替える 平成27年度は33灯交換実施 平成28年度に49灯交換実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	本社工場	コード (1215) 低圧動力用効率改善コンデンサ設置	低圧動力用の効率改善コンデンサを導入することで負荷変動による電圧降下を無くし、出力電圧を10%下げること、軽負荷時の過電圧を軽減する (220V→200V)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9		GHG排出	本社工場	コード (5121) 夜勤作業1時間シフト	夜勤の作業開始時間を22時から23時に変更し作業前の加熱炉事前熱上げ、作業準備電力を22時以降にシフトする。	2015 年度 ～ 2018 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		～ 年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

	届出者	住所	大阪府堺市西区築港新町3-11-1	氏名	日本酢ビ・ポパール株式会社 代表取締役社長 名倉 茂広
特定事業者の主たる業種			16化学工業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者		
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者		
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		① エチレン、酢酸、酸素を原料として酢酸ビニルを製造する。 ② 酢酸ビニルを原料としてポリビニルアルコールを製造する。  堺市西区に本社と工場（1箇所）を持つ。			

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	130,300 t-CO <sub>2</sub>	142,207 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	130,944 t-CO <sub>2</sub>	142,891 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	3.0 %	-1.2 %	-4.2 %	-0.3 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-1.2 %	-4.2 %	-0.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

昨年度は、定修スキップの年度にあたり省エネ等の工事を実施することは出来なかった。しかし平成28年度に実施した省エネ改善の効果は確実に確実に貢献していることが伺える。引き続き改善に努めてゆきたいとかがえています。
---

(2) 推進体制

当社は、ISO14001認証取得工場であり、今後も社長をトップとして環境管理活動に努めます。一方、工場長を責任者とした、環境管理委員会を設置しており従来にも増して温室効果ガス削減に関する活動を推進しています。さらに、グループ会社の合理化委員会で省エネ実績の報告を行っています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	堺工場	コード (1124) 自家発電量増加 対策	スチームタービン背圧低減により、熱落差を増大・増発電 (年間159t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	堺工場	コード (1126) 省エネ機器導入	高効率機器への更新による省電力 (年間22t-CO2を削減) ⇒平成28年度 7月 実施済み	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	堺工場	コード (1123) ボイラ効率の改善	ボイラ排熱回収システム変更による効率改善 (年間3,800t-CO2を削減) ⇒平成28年度 7月 実施済み	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	堺工場	コード (1113) 冷凍機更新・高効率化	除熱システム見直しによる冷凍機負荷軽減と冷凍機更新・高効率化 (年間563t-CO2を削減) ⇒平成28年度 7月 実施済み	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	堺工場	コード (1123) 潜熱の有効利用	フラッシュ蒸気の回収 (年間606t-CO2を削減) ⇒平成30年度 7月実施済み	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
6	レ GHG排出	堺工場	コード (1123) 潜熱の有効利用	蒸留塔ベーパー潜熱の有効利用 (年間1,213t-CO2を削減) ⇒平成30年度 7月実施済み	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
7	レ GHG排出	堺工場	コード (1218) 高効率照明設備の導入	照明設備の更新 (LED照明導入) (年間64t-CO2を削減) ⇒平成32年度までの5年間で	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
8	レ GHG排出	堺工場	コード (1113) 運転管理	予備再沸器の予熱方法見直し (年間774t-CO2を削減) ⇒平成28年度 4月 実施済み	2016 年度 ～ 2016 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府吹田市東御旅町11-46	氏名	日本製紙パピリア(株)吹田工場 取締役吹田工場長 丸谷 修平
特定事業者の主たる業種		14パルプ・紙・紙加工品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		電気絶縁紙等の製造		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	13,787 t-CO <sub>2</sub>	14,874 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	14,733 t-CO <sub>2</sub>	15,934 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	-6.2%	-13.1%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	-6.4%	-13.3%	-8.2%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>第3年度に温室効果ガスが7.9%増加したのは、温室効果ガスの削減対策も実施しましたが、平成29年度の生産量が基準年度よりも増加したことに伴い、工場エネルギー使用量も基準年度より増加したことが主要因と考えられます。</p>
---



(2) 推進体制

全社的に温暖化対策に取り組むため環境マネジメントシステムを導入し、平成14年より吹田工場はISO14001を認証取得して活動を継続している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1	レ	GHG排出	吹田工場	コード (1122) タンクの保温	平成27年度に生産工程原料タンクの側壁保温工事を実施し、省エネを図った。(年間25t-CO2を削減)	2015年度～年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	吹田工場	コード (1218) LED照明器具の導入	平成27年度に工場内の照明器具をLED照明器具に更新し、省エネを図った。(年間12t-CO2を削減)	2015年度～年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	吹田工場	コード (1215) 高効率モーターの導入	平成27年度に生産工程モーターを高効率モーターに更新し、モーター損失を低減した。(年間5t-CO2を削減)	2015年度～年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	吹田工場	コード (1215) アジテーターをインバーター制御化	生産工程アジテーターをインバーター制御化し省エネを図る予定にしていたが、省エネ効果が望めないことが判明し、計画を中止する。(年間28t-CO2を削減)	2015年度～2017年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	吹田工場	コード (1216) 空調設備の更新	平成27年度に工場内のエアコンを更新し、省エネを図った。(年間3t-CO2を削減)	2015年度～年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	吹田工場	コード (1216) 空調機熱交換器の洗浄	平成27年度に生産工程仕上空調機熱交換器の洗浄を実施し、省エネを図った。(年間10t-CO2を削減)	2015年度～年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	吹田工場	コード (1218) LED照明器具の導入	平成28年度に生産工程内の照明器具をLED照明器具に更新し、省エネを図った。(年間8t-CO2を削減)	2016年度～年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	吹田工場	コード (1215) 高効率モーターの導入	平成28年度に生産工程モーターを高効率モーターに更新し、モーター損失を低減した。(年間11t-CO2を削減)	2016年度～年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	吹田工場	コード (1216) 空調機器の更新	平成29年度の追加対策として、生産工程仕上空調機器の更新を実施し、省エネを図った。(年間8t-CO2を削減)	2017年度～年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	吹田工場	コード (1218) LED照明器具の導入	平成29年度の追加対策として、新たに生産工程内の照明器具をLED照明器具に更新し、省エネを図った。(年間2t-CO2を削減)	2017年度～年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
	GHG排出	人工排熱				
1		GHG排出		コード		～年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

--

\_\_\_\_\_

# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区高麗橋 4丁目1番1号 興銀ビル	氏名	日本精線株式会社 代表取締役社長 新貝 元
特定事業者の主たる業種		22鉄鋼業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ステンレス鋼線の製造販売及び金属繊維フィルターの製造販売を行っており、大阪府内では枚方市(1ヶ所)と東大阪市(1ヶ所)に工場及び大阪市内に本社を設けている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	31,297 t-CO <sub>2</sub>	32,741 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	33,313 t-CO <sub>2</sub>	34,980 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-0.1 %	7.6 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-0.2 %	7.4 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (枚方工場と東大阪工場の製品生産量(質量) )

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>下記の内容等の取り組みに加えて製品生産量が基準年度より増加した結果、CO<sub>2</sub>の排出量の削減及び製品生産量原単位ベースでの削減を達成した。</p> <p>①太陽光発電システムの導入 ②空調設備の更新 ③照明器具のLED化</p>
--

(2) 推進体制

工場においては、ISO14001規格に基づく環境マネジメントシステムにより、エネルギー使用量の低減を推進していきます。  
 具体的には、年度毎にCO2削減の方策と目標を定め、四半期毎の方針管理で達成状況をフォローアップしています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1122) 電力量の削減	熱処理工程の洗浄装置 (AD3、ADU、AA10、AAR) の循環ポンプ用インバーター取付による電力量削減 (年間 48 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1121) 熱処理炉の燃焼の合理化	熱処理工程のAA5.5焼鈍炉(電気加熱炉)をリジエネレタイプガスバーナーを装備した高性能工業炉にリプレイス (年間 73 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1121) 熱処理炉の燃焼の合理化	熱処理工程のAA10焼鈍炉(電気加熱炉)をリジエネレタイプガスバーナーを装備した高性能工業炉にリプレイス (年間 92 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1114) 電力量の削減	エアコン修理によるコンプレッサの電力量低減 (年間 98 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1215) 電力量の削減	75kW空冷コンプレッサ2台設置。既存コンプレッサ1台削減。(年間 10 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1121) 熱処理炉の燃焼の合理化	熱処理工程のAD4焼鈍炉 リジエネレタイプガスバーナーを装備した高性能工業炉にリプレイス (年間 39 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1216) 電力量の削減	食堂厨房の空調機を省エネタイプに更新 (年間 10 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	東大阪工場	コード (1199) 電力量の削減	設備集約と配管経路変更によるコンプレッサの電力量削減 (年間 60 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	東大阪工場	コード (1218) 電力量の削減	高効率照明器具への変更による電力量低減 (年間 60 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	東大阪工場	コード (1215) 電力量の削減	ファン、ブロー-高効率モーター導入による電力量削減 (年間 10 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	東大阪工場	コード (1221) 燃料の転換	乾燥工程の被膜乾燥炉を電気加熱式からガス燃焼式に変更 (年間 20 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	東大阪工場	コード (1216) 電力量の削減	事務所用エアコンの更新(ガスヒートポンプ化) (年間 14 t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
13	レ	GHG排出	枚方工場 東大阪工場 本社	コード (1199) 運用による対策	工場出入り業者へのアイドリングストップ呼びかけ	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
	レ	GHG排出	枚方工場	コード (1222)	焼却用廃棄物の低減	2015 年度

14	レ	人工排熱	枚方工場 東大阪工場 本社	再生可能エネルギーの活用	再生材の使用 (FAX、プリンター)の再利用	・裏紙	～ 2017 年度
		平準化					
15	レ	GHG排出	枚方工場 東大阪工場 本社	コード (1199) 運用による対策	休憩時間の消灯		2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱					
	レ	平準化					
16	レ	GHG排出	本社	コード (1199) 運用による対策	クールビズ、ウォームビズ		2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱					
		平準化					

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	枚方工場 東大阪工場 本社	コード (2122) 公共交通機関の 利用促進	自動車使用の自粛を呼びかけ、環境に対する負荷の少ない公共交通機関の利用を推進する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	枚方工場 東大阪工場 本社	コード (2112) 燃料使用に関する データ管理	自動車ごとの走行距離、燃料消費量のデータを定期的に記録し効率的な運用方法の検討に役立つ。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	枚方工場 東大阪工場 本社	コード (2123) エコドライブの 促進	不要なアイドリングを止めたり、急加速や急停止をしない、余裕のあるルートプランを立てるなど、燃費を考慮したエコドライブの推進。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	枚方工場 東大阪工場 本社	コード (2114) 定期的な点検の 実施	定期的にタイヤ空気圧の適正化、エアクリナーの清掃・交換及びエンジンオイルの交換の実施。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市西区江之子島2-1-54	氏名	公益財団法人日本生命済生会 理事長 三木章平
特定事業者の主たる業種		83医療業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		予防・治療・在宅看護まで一貫した総合的な高度医療の提供を通じ、地域医療水準の向上に貢献するとともに、第二種社会福祉事業や健康知識の普及を通じ、地域の公衆衛生の向上と健全な地域社会の発展に貢献する。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)
---------	---------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	3,950 t-CO <sub>2</sub>	3,870 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,332 t-CO <sub>2</sub>	4,254 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	2.6%	0.1%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	2.5%	0.1%	1.8%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

平成29年度は省エネ・節電対策として、照明間引き・消灯の継続実施及び職員食堂に電気使用量のグラフを掲示し省エネの周知を実施する事で、基準年度比2.1%の削減となった。引き続きエネルギー使用量削減と職員の省エネ意識改革に努める。
---

(2) 推進体制

省エネルギー推進について、収支改善プロジェクトチームと連携する。  
 リーダーは理事長、サブリーダーは院長、及びメンバーは各部代表者とする。  
 事務局は事務管理部とする。  
 会議は1回/月開催とする。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1111) 省エネルギー推進体制の整備	エネルギーの使用実績と目標との対比及び問題点の抽出とその対策の検討を実施する。H27～29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1112) エネルギー使用量の把握	主要設備毎の運転時間とエネルギー使用量の把握とデータ管理を行う。H27～29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1113) 適切な運転管理	空調・熱源機器の負荷状況に応じた無駄のない適切な運転管理を行う。H27～29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1114) 定期的な保守及び点検	定期的・計画的に設備の保守及び点検を実施し、良好な状態に保つ。H27～29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1199) クールビズの実施	夏期にクールビズを実施し、管理区域の室内冷房設定を27℃に設定する。H27～29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	日生病院	コード (1199) 屋上散水の実施	夏期屋上過熱による空調負荷増大対策として屋上散水を実施する。H27年度実施済。H28・29年度未実施	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1199) エアコン室外機の水洗浄を実施	夏期シーズン前にエアコン室外機の水洗浄を実施する。H27～29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
8	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1216) 省エネタイプVベルトを使用	空気調和設備のVベルトに省エネタイプVベルトを使用する。H27～29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
9	レ	GHG排出	日生病院	コード (5231) 電力デマンド制御装置の活用	電力デマンド制御装置を活用し、デマンド設定値に近づいた時に空調設備の運転管理を行い、ピーク電力を削減する。H27～29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
10	レ	GHG排出	日生病院	コード (5121) 蓄熱システムの活用	冷房時は夜間電力を使用する水蓄熱システムを活用する。H27～29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
11	レ	GHG排出	日生病院	コード (5211) ガス冷温水発生機の使用	冷暖房は主熱源としてガス冷温水発生機を使用する。H27～29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
12	レ	GHG排出	日生病院	コード (1299) 反射レースカーテンの施工	平成27年度に追加対策として、病棟東面窓に反射レースカーテンを施工した。H27～29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
-----	-----------------------------------	--	------	------	-------	------------------

1	レ	GHG排出	日生病院	コード (2114) 自動車の適正な 維持管理	定期的にタイヤの空気圧の適正化、エアー リーナーの清掃・交換及びエンジンオイルの交 換などを行い、良好な整備状態を維持する。 H27~29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策




# 実績報告書

		大阪市中央区今橋3丁目5番12号		日本生命保険相互会社 代表取締役副会長 古市 健
届出者	住所		氏名	
特定事業者の主たる業種		67保険業（保険媒介代理業，保険サービス業を含む）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		生命保険業（免許に基づく保険の引受けおよび資産の運用）および付随業務（他の保険会社その他金融業を行う者の業務の代理または事務の代行等）		

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間				
2015年	4月	1日	～	2018年 3月 31日 (3年間)

### (2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	57,996 t-CO <sub>2</sub>	57,790 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	65,476 t-CO <sub>2</sub>	65,240 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

### (3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率（排出量ベース）	%	%	%	%
	レ	削減率（原単位ベース）	3.0 %	8.3 %	3.6 %
削減率（平準化補正ベース）		-	8.2 %	3.3 %	9.5 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	（延床面積）
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

## ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

### (1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>H27年度より日本生命本店東館が本格稼働、H28年度より彩都センターが本格稼働となりエネルギー総使用量・温室効果ガス総排出量が増加。H27～H29年度は一部ビルで行った空調・エレベーター設備等更新に加え、運用面で照明の減灯、空調温度の適正化、自動販売機の消灯等を実施。また、入居テナントへ節電協力依頼を行った。</p>
<p>H29年度はロジスティクスセンター大阪松原、貝塚グランド等の事業所が増加したものの、上記取組の成果もあり、基準年度と比べエネルギー使用量が減少し、原単位ベースでも基準年度比9.5%の削減となった。</p>

(2) 推進体制

経営会議の諮問機関として、環境保全に向けた全社的運動の展開を任務とする「環境委員会」を平成12年度に設置（平成30年度「サステナビリティ経営推進委員会」に改称）。社長に任命された委員長のもと、委員会規則に基づき、環境取組を推進している。「サステナビリティ経営推進委員会」は年2回開催し、当委員会で設定された環境に関する目標について、各所属が定期的（年3回）に進捗状況を事務局に報告。状況に応じて目標達成のための改善を図る。更に委員会には、会社全体の環境保全（省エネ・省資源等）の取組状況も報告・検討される。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	全投資ビル	コード (1199) テナントへの省エネ協力依頼	ポスターの掲示や依頼文書の配布等により入居テナントへ向けた省エネの協力依頼を行う。 H27. 28. H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	全営業物件	コード (1113) 不要電力の節減	不要照明の消灯や、離席時にパソコンを省エネモードへ設定する呼びかけを行う。 H27. 28. H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	全事業所	コード (1113) 空調設定温度の適正化	空調設定温度の適正化により温室効果ガス排出量の削減を行う。 H27. 28. H29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	K・シオノビル	コード (1216) 空調設備の更新	個別空調PAC. 136台 設置 空調機. 8台 更新 熱源 ヒートポンプチャ. 2台 撤去 H27年度実施済	2014 年度 ～ 2015 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	豊田日生北浜ビル	コード (1216) 空調設備の更新	個別空調PAC. 191台 設置 空調機. 9台 更新 熱源 冷温水機. 1台 撤去 ヒートポンプチャ. 1台 更新 H27年度実施済	2014 年度 ～ 2015 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
6	レ GHG排出	金鳥土佐堀ビル	コード (1216) 空調設備の更新	個別空調PAC. 154台 設置 空調機. 10台 更新 熱源 冷温水機. 1台 更新 ヒートポンプチャ. 2台 更新 H27年度実施済	2014 年度 ～ 2015 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
7	レ GHG排出	日本生命御堂筋八幡町ビル	コード (1217) 昇降設備の更新	エレベーター(乗用3台・非常用1台)、インバーター制御に更新 H28年度実施済	2016 年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
8	レ GHG排出	日本生命御堂筋ビル	コード (1217) 昇降設備の更新	(追加) エレベーター(常用6台・非常用2台) インバーター制御に更新 H29年度実施済	2016 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
9	レ GHG排出	上村ニッセイビル	コード (1217) 給湯設備の更新	(追加) 湯沸器20台 更新 H29年度実施済	2017 年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
10	レ GHG排出	上村ニッセイビル	コード (1216) 空調設備の更新	(追加) FCU: 446台 撤去 個別空調PAC: 室内機315台 室外機21台 新設 H28年度実施済	2017 年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	車両使用事業所	コード (0)	リース契約会社及び、乗務員派遣先企業とメンテナンス契約を締結し、適正な車両の維持と管理を行う。 H27. 28. 29年度実施済	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策

ニッセイ緑の財団とともに1992年から森づくりに取り組んでいる。これまでに植えた苗木は131万本を超え、“ニッセイの森”は43都道府県の187ヶ所（約435ha）に広がっている。また、緑化への取組を積極的に行っている自治体と協力し、植樹・育樹へも力を入れている。

# 実績報告書

届出者	住所	大阪府泉佐野市住吉町26番	氏名	日本製薬株式会社 大阪工場 工場長 赤石 暁弘
特定事業者の主たる業種		32その他の製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		当社は医薬品・医薬部外品の製造販売を行っており、大阪工場では主に栄養ドリンク剤の製造を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	5,530 t-CO <sub>2</sub>	5,283 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,736 t-CO <sub>2</sub>	5,473 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	3.4%	1.9%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	3.4%	1.8%	4.6%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

大阪工場は、エネルギー使用量の削減により、対前年度に対して3.0%の削減率となり、基準年度に対して4.5%の削減率となった。
--

(2) 推進体制

<p>当工場は、環境・防災に関する全社方針である「日本製薬株式会社の環境・防災方針」に基づき製薬企業の社会的使命として、人々の健康に寄与することを第一義とすると共に、環境マネジメントシステムISO14001の充実を図り、全従業員参加のもとに環境保全活動の推進、維持向上に努めています。 また、武田薬品グループの一員として環境防災の推進活動を行っております。</p>
<p>平成24年12月からエネルギー管理者を環境防災委員会組織に参画させて工場内のエネルギー使用状況の確認や増減についての原因調査、省エネ対策検討を行うようにしている。</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 照明設備の導入	蛍光灯を順次省エネタイプに更新する。 (年間1 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	GHG排出	大阪工場	コード (1215) ポンプインバータの導入	冷却水ポンプの老朽化更新の際にインバータを導入する。 (年間31 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	GHG排出	大阪工場	コード (1215) エアコンプレッサの効率化	エアコンプレッサの老朽化更新の際に省エネタイプを導入する。 (年間20 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
4	GHG排出	大阪工場	コード (1215) 高効率変圧器の導入	高圧変圧器の老朽化に併せて高効率変圧器に更新 (年間17 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
5	GHG排出	大阪工場	コード (1216) 空調設備の効率化	空調機 (パッケージエアコン等) の老朽化更新の際に省エネタイプを導入する。 (年間10 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
6	GHG排出	大阪工場	コード (5211) コージェネ設備のピークカット運転	夏季 (7月～9月) の電力ピーク時間帯 (平日10:00～17:00) にコージェネレーション設備 (2台) を運転する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	大阪事務所	コード (2123) エコドライブの推進	エコドライブの推進	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
2	GHG排出	大阪事務所	コード (2121) ハイブリッド車への切替	ハイブリッド車への切替	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

<p>営業活動で使用している自動車を燃費の良いハイブリッド車に順次切替へ、ハイブリッド車の台数が全体で96%になったことにより、燃費が向上してガソリン使用量削減に寄与したと考える。 ※23台/24台 (ハイブリッド車/全体数)</p>

## 実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区大手前2-1-7	氏名	日本赤十字社大阪府支部 支部長 尾崎 裕
特定事業者の主たる業種		92その他の事業サービス業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		支 部 : 国際活動等 大阪赤十字病院: 保健医療事業 高槻赤十字病院: 保健医療事業、訪問看護、ケアプラン 血液センター : 移動献血車による出張採血業務、献血血液の販売・管理業務、広報車による献血推進業務		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	17,613 t-CO <sub>2</sub>	16,956 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	18,131 t-CO <sub>2</sub>	17,952 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.1 %	3.1 %	1.1 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	3.5 %	3.3 %	1.0 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏期、冬期の気候変化による空調機器への負荷増大や、従業員数の増加等により、温室効果ガス排出量が基準年度に比べ増加した。今後も省エネルギー化について配慮し、温室効果ガスの排出量削減に努める。</li> <li>・車両更新時の省エネ車の導入・職員の夏季礼装励行やノー残業デー設定など業務効率化に努めている。また、平成28年度より事務室の昼休み時間の消灯や複数台あるエレベータの一部停止等を行った。</li> </ul>
---

## (2) 推進体制

・省エネ・省コストを推進し、対策を検討するための委員会を開催し、エネルギー使用実績と目標を対比させ、問題点を抽出した上で具体的な対策を行っている。  
 ・エネルギー使用量の削減のため、各部門で実務を行なっている若いメンバーを結集して、効果的な節電対策を立案・実行する節電対策チームを発足させ活動している。

## (3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

## 1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	大阪赤十字病院	コード (1111) 省エネ推進委員会の開催	省エネ・省コストを推進する委員会の継続。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪赤十字病院	コード (1111) 近隣施設との情報交換	2ヶ月に1度近畿圏内における他院との省エネ、施設管理に関する情報交換を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	大阪赤十字病院	コード (1113) ガスタービンの運転時間の効率化	夏期のガスタービン運転時間を変更し、効率化を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪赤十字病院	コード (1113) 節電の徹底	照明、空調のスイッチに「節電シール」を貼り、未使用時には電源を切るよう表示する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	大阪赤十字病院	コード (1113) 室内設定の徹底	室内設定(夏期26℃、冬期22℃)を徹底させ、リモコンの温度の設定範囲に限度を設ける。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	大阪赤十字病院	コード (1216) 空気調和・熱源設備の最適制御	中央監視装置のメーカーによる省エネチューニングを行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	大阪赤十字病院	コード (1217) エレベーター、エスカレーター利用の抑制	低階層の移動はエレベーターではなく階段を使用するよう、院内通知とシールで職員に呼びかけており、また、本館エスカレーターの運転時間を見直している。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	大阪赤十字病院	コード (1218) 照明量の削減	夜間(19時以降)は照明の点灯数を減らしている。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
9		GHG排出	大阪赤十字病院	コード (4999) 資源ごみの分別化及びリサイクル化	資源ごみ(ビン・カン・ペットボトル)の分別化及びリサイクル化を行い、CO2の排出削減を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	大阪赤十字病院	コード (1218) 消費電力の削減	東館4階・5階・6階ダイルールのダウンライト照明器具をLED器具に交換する。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	大阪赤十字病院	コード (1218) 消費電力の削減	本館個室ベッドランプをLED器具に交換する。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	大阪赤十字病院	コード (1113) 冷水・温水2次ポンプインバータ化	冷水と温水を2次ポンプをインバータ化することによって、ポンプの回転数制御で流量を制御することで省エネルギーを図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	大阪赤十字病院	コード (1111) 節電対策チームの活動	対策を検討し省エネに対する啓発を図り、職員へ省エネを意識さす。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
	レ	GHG排出		コード (5112)	以前からの間引き点灯箇所及び消灯時間の徹底	2015 年度

14	レ	人工排熱	高槻赤十字病院	照明器具消灯の徹底	を引き続き行い、外灯タイマーの設定時間をこまめに変更することで、電力削減に努める。	～ 2017 年度
		平準化				
15	レ	GHG排出	高槻赤十字病院	コード (1217) エレベーター利用	職員に対し低層階の移動は階段を利用するよう周知する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
16	レ	GHG排出	高槻赤十字病院	コード (1113) 空調機運転管理	空調の不必要な場所はこまめに停止し、外気導入量を調整し空調負荷軽減に努める。また、現地温度が夏27℃・冬22℃となるよう運転する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
17	レ	GHG排出	高槻赤十字病院	コード (1214) 適正なコージェネ運転	排熱利用効果が大きくなるようコージェネ運転を行い、電力ピーク時に稼働さす事で電力平準化に寄与する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
18	レ	GHG排出	高槻赤十字病院	コード (1216) GHP機器更新	緩和ケア病棟設置のGHPを更新する。更新により、現有機器と比較しガス消費量20%削減に繋がる。また、ガス冷暖房により電力標準化に寄与する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
19	レ	GHG排出	高槻赤十字病院	コード (1218) 照明設備の導入	照明器具更新時は省エネ効果の高い照明設備(Hf 蛍光灯)を選定する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
20	レ	GHG排出	高槻赤十字病院	コード (1113) ウォシュレット設定変更	冬場以外は便座ヒーター・温水設定を“低”とする。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
21	レ	GHG排出	大阪府支部	コード (1218) 照明の管理	未使用の場所の照明電源off	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
22		GHG排出	大阪府支部	コード (1225) 資源ゴミの分別化	資源ゴミ(ビン・カン・ペットボトル)の分別化	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
23	レ	GHG排出	大阪府支部	コード (1113) エレベーター利用抑制	使用頻度減少時でのエレベーター停止(1基)	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
24	レ	GHG排出	大阪府支部	コード (1113) ウォシュレット設定変更	夏場、ウォシュレット便座ヒーター電源off	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

## 2. 自動車分野

No.	温室効果ガス(GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール(年度)
1	レ	GHG排出	高槻赤十字病院	コード (2123) エコドライブ推進	公用車及び訪問看護車両の全車がエコドライブを実施する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	高槻赤十字病院	コード (2114) 車両の維持管理	タイヤ空気圧及びエアクリナーを適正に整備し良好な状態を維持することでガソリン消費削減を図る	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	大阪府支部	コード (2113) 車両の適正な管理	点検運転日報を作成し、日々の運転整備を適正に行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
4		GHG排出	大阪府支部	コード (2114) 車両の適正な管理	余分な燃料消費を避けるため、タイヤの空気圧を常に適正に保つ。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
5		GHG排出	大阪府赤十字血液センター	コード (2113) 車両の適正な管理	点検運転日報を作成し、日々の運転整備を適正に行う。	2015 年度 ～



			車両の適正な管理	取組状況をこつしているか確認している。	2017 年度
6	GHG排出	大阪府赤十字血液センター	コード (2114) 車両の適正な管理	緊急車両については、業者委託による保守整備をしている。 タイヤ空気圧を常に適正に保つ。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
7	GHG排出	大阪府赤十字血液センター	コード (2121) 更新時の整備計画	車両更新時、省エネ仕様の車両を整備するように努めており、年間5台前後の更新を予定している。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				

(4)その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪市西区土佐堀2丁目2番4号	氏名	株式会社 日本総合研究所 取締役社長 瀧崎 正弘
特定事業者の主たる業種		39情報サービス業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		受託計算、システムインテグレーションサービス、および企業コンサルタント業務をおこなっている。 東阪で9箇所のビルに入居、大阪府内では3の事業所を報告対象とする。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	11,403 t-CO <sub>2</sub>	10,293 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	12,670 t-CO <sub>2</sub>	11,370 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率 (排出量ベース)	%	%	%
		削減率 (原単位ベース)	3.0 %	2.6 %	4.6 %
削減率 (平準化補正ベース)		-	2.8 %	5.1 %	6.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ( 換算電算機の設置面積 )

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

大阪府内のエネルギー管理工場以外の全事業所の年度末従業員数  
面積と社員数についてCO<sub>2</sub>のtあたり係数(換算係数 (m<sup>2</sup>/人))を算出し  
基準年度原単位=特定分排出co<sub>2</sub>原単位+特定外分排出co<sub>2</sub>原単位×換算係数  
目標年度原単位=特定分排出co<sub>2</sub>原単位+特定外分排出co<sub>2</sub>原単位×換算係数(同上) より  
指標=(基準年度原単位-目標年度原単位)÷基準年度原単位×100 とする

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>特定事業所にて、外灯LED化改修工事の完了(平成27年度)、及び対象フロアの電算室エアコン風量可変制御「スマートダッシュ」構築工事が完了(平成27年度)し、順次運用を開始した効果、さらに、電算室・一般空調設定温度の調整、電算室全熱交換機運転時間の変更、及び節電対策を継続し、結果として原単位ベースの削減率は計画値を上回り、5.7%となった。 今後も節電運動は継続していく方針である。</p>
--

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>平成20年よりSMB Cグループの一員としてISO14001認証を取得。</li> <li>環境経営責任者は上位組織としてSMF G内に設置。</li> </ul> <p>弊社は業務管理部内に環境管理責任者を配し、3ヵ年計画を策定するとともに環境関連教育と3ヶ月毎に活動実績の進捗状況を報告して、P D C Aサイクルを働かせています。</p>
---

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	土佐堀オフィス	コード (1112) 電気の使用量記録を中心としたP D C A	低消費型P Cへの切替、不要な照明の消灯、及び不要な空調の停止【年間4t-CO2削減】	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	土佐堀オフィス	コード (1113) 空調運転管理によりピーク時負荷平準化	冷房時の温度設定を28℃とし管理強化。夏季及び冬季の空調運転開始時間を30分前倒しし、ピーク時負荷平準化。【年間3t-CO2削減】	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	鰻谷センター	コード (1112) 低電力消費型電灯の採用	外灯LED化改修工事【年間10t-CO2削減】	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	鰻谷センター	コード (1216) 空調設備の効率アップ	電算室エアコン風量可変制御「スマートダッシュ」構築工事 (6F, 8F, 9F)【年間100t-CO2削減】	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	西九条オペレーションセンター	コード (1112) 電気の使用量記録を中心としたP D C A	低消費型P Cへの切替、不要な照明の消灯、及び不要な空調の停止	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	西九条オペレーションセンター	コード (1113) 空調運転管理によりピーク時負荷平準化	冷房時の温度設定を28℃とし管理強化。夏季及び冬季のピーク時負荷平準化。	2017 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市旭区赤川1-10-21	氏名	日本タクシー株式会社 代表取締役 坂本 栄二
特定事業者の主たる業種		43道路旅客運送業		
該当する特定事業者の要件			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		一般乗用旅客自動車運送事業 (大阪府下3営業所)		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	9,653 t-CO <sub>2</sub>	8,565 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	9,660 t-CO <sub>2</sub>	8,572 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	3.9 %	8.6 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	3.9 %	8.6 %	11.3 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

省エネ効果の高い照明設備を整備し、アイドリングストップを徹底できた。
------------------------------------

(2) 推進体制

各営業所に於いて班長会等を開催し、温暖化防止の現状改善を検討するとともに、各乗務員に対して温暖化防止の啓発を実施しており、本体制を継続していきます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての事業所	コード (1122)	冷暖房の温度設定を最適に行えるよう運転制御・管理システムを運用する。(年間3.0t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	本社営業所	コード (1218)	省エネ効果の高い照明設備 (Hf 蛍光ランプ) に更新する。(年間1.0t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	寝屋川営業所	コード (1218)	省エネ効果の高い照明設備 (Hf 蛍光ランプ) に更新する。(年間1.0t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	吹田営業所	コード (1218)	省エネ効果の高い照明設備 (Hf 蛍光ランプ) に更新する。(年間1.0t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全ての営業所	コード (2121) アイドリングストップ車の導入	アイドリングストップ装置車へ順次更新してゆく。(年間8.0t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	本社営業所	コード (2123) アイドリングストップの励行	アイドリングストップの励行を指導します。(年間174t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	寝屋川営業所	コード (2123) アイドリングストップの励行	アイドリングストップの励行を指導します。(年間174t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	吹田営業所	コード (2123) アイドリングストップの励行	アイドリングストップの励行を指導します。(年間174t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	東京都港区虎ノ門二丁目2番1号	氏名	日本たばこ産業株式会社 代表取締役 寺島 正道
特定事業者の主たる業種		10飲料・たばこ・飼料製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>主に製造たばこの製造及び販売、食料品の製造・加工及び販売、医薬品の製造及び販売を行っており、大阪府内には製造たばこ販売関係の7事業所（2支社・5支店）、及び医薬品の研究開発を行っている研究所が1事業所があります。</p> <p>その内で医薬品の研究所（医薬総合研究所）が主な事業所に該当します。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間				
2015年	4月	1日	～	2018年 3月 31日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	11,916 t-CO <sub>2</sub>	12,335 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	13,004 t-CO <sub>2</sub>	13,454 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0%	-0.2%	0.2%
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	-0.1%	0.3%	-3.5%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>当事業所のエネルギー使用は空調系の使用割合が最も高く、平成22年に実施した中央熱源の全面更新など空調系の施策を中心に省エネを推進している。中央熱源更新の前年(平成21年)の実績と比較して平成29年実績は8年間で20.0%改善している。過去8年間の前半で大幅な削減対策を実施した結果、その後の省エネ余地が相対的に少なくなっている。</p> <p>29年度も冷凍機の台数制御改善などの施策を検討したが、厳冬による暖房負荷増加などのマイナス要因により前年よりも改善することはできなかった。</p>
--

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>・全社的に環境マネジメントシステムの導入を図っており、事業所単位で環境管理委員会を設置、委員会で中長期環境行動計画及び年度計画を策定している。計画に対しては四半期単位で実績の評価を行なっている。</li> <li>・医薬総合研究所で毎月、省エネ検討会を開催し、省エネ施策の効果分析・立案などを実施している。</li> </ul>
---

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	医薬総合研究所	コード (1113) 中央熱源および周辺機器の運転最適化	中央熱源の運転最適化 (熱源更新後に継続して実施中)。ボイラ台数削減等をメーカーと検討したが実施可能な対策は出なかった。引き続き冷凍機の台数制御、送水温度設定の再検討などを行う。	2015 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	医薬総合研究所	コード (1218) 照明のLED化	照明のLED化を行う。対象エリアを年度ごとに振り分けて計画的に更新を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (1199) クールビズ・ウォームビズの推進	クールビズ・ウォームビズの推進し、居室の温度設定を適切に設定する。	2015 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4		GHG排出	医薬総合研究所	コード (5111) ピークカット	電気使用量の高い夏季には使用電力が契約電力に近づいた場合に熱源構成を変更しピークデマンドを抑制する対応をとる。※ 熱回収ターボ冷凍機⇒インバーターターボ冷凍機+ボイラー	～ 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	自動車のリースの更新に当たっては、全て低燃費車両を導入する。	～ 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	東京都港区六本木6-11-1	氏名	日本中央競馬会 理事長 後藤 正幸
特定事業者の主たる業種		80娯楽業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		<p>日本中央競馬会は、競馬法（昭和23年法律第183号）に基づいて中央競馬を施行し、もって競馬の健全な発展を図り、馬の改良増殖その他畜産の振興に寄与することを目的として事業活動を行っています。</p> <p>なお、大阪府には別紙のとおり6事業所が所在しています。</p>		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	6,521 t-CO <sub>2</sub>	6,073 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,423 t-CO <sub>2</sub>	6,924 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	4.7 %	7.8 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	4.8 %	7.9 %	6.8 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>第3年度(平成29年度)の削減率は6.9%で、当該計画期間においては全ての年度で削減目標である3%を上回りました。次の計画期間においても、引き続きエネルギー使用量の削減に取り組んでいきます。</p>
--



(2) 推進体制

日本中央競馬会では、平成18年1月に「温室効果ガス排出抑制実施計画推進本部」を設置し、地球温暖化対策を推進しています。各事業所においては「省エネルギー推進委員会」・「省エネルギー推進連絡会」を適宜開催し、温室効果ガス排出抑制に努めています。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	W難波／道頓堀／梅田	コード (1111) 省エネルギー推進連絡会の開催	平成29年度も、平成27・28年度に引き続き「省エネルギー推進連絡会」を開催し、省エネ活動を推進した。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	全事業所	コード (1112) エネルギー使用量の把握	平成29年度も、平成27・28年度に引き続きエネルギー使用量を把握し、使用量を適切に管理した。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	全事業所	コード (1199) 節電施策の実施	平成29年度も、平成27・28年度に引き続き冷暖房設定温度の適正化や照明の間引き等の節電施策を適宜実施し、省エネを図った。	2015 年度 ～ 2017 年度
	人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	関西計算センター	コード (1216) 空調設備の更新	平成27年度には空調設備更新工事（第Ⅲ期）を実施し、エネルギー使用量の低減が図られた。	2015 年度 ～ 2015 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪市北区梅田3-2-103	氏名	日本通運株式会社 大阪支店 支店長 池田 誠
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		貨物自動車運送事業、鉄道利用運送事業、海上運送事業、航空利用運送事業、倉庫業など、物流に関わる分野での事業活動を行っている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	22,071 t-CO <sub>2</sub>	21,336 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	23,797 t-CO <sub>2</sub>	22,988 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.3 %	3.2 %	6.7 %
削減率(平準化補正ベース)		-	8.7 %	8.9 %	6.8 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 収入実績 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>エコドライブの実践や全車両の燃費を月ごとに算出し全事業所で把握・共有できるようにしCO<sub>2</sub>削減に取り組んでいます。今年度は昼食時間の消灯を行い電気消費量の削減を実践しております。また、弊社独自のシステムである「NESシステム(エネルギー見化システム)」を昨年に引き続き活用し、月々の実態を数値やグラフで見える化することでひとりひとりが温室効果ガスの削減を意識し実行しています。</p>
---

(2) 推進体制

全社的に環境保全活動を深化させるため、各事業所において、環境マネジメントシステム国際規格ISO14001及びグリーン経営認証の取得を推進しております。また、「チャレンジ25キャンペーン」に賛同し、取組みに参加しています。その他現在『おおさか交通エコチャレンジ』参加中

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1114) 荷役機器・施設設備等の定期点検	フォークリフト始業前点検、エレベーター・空調機器の保守点検の実施する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 節電対策	必要に応じ、照明施設の消灯を実施する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (1113) 省電力化	クールビズを推進し、夏季エアコンの温度設定を28℃に保つ。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (1218) 省エネ照明設備の導入	省エネ効果の高い照明設備への代替推進を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	全事業所	コード (1215) 省エネ機器への代替推進	老朽化している変圧器・空調機器の省エネ型機器への代替推進を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	全事業所	コード (1221) バッテリー式フォークリフトへの代替推進	軽油・ガソリン等のエンジン式フォークリフトをバッテリー式フォークリフトへの代替推進を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (2121) 低燃費車の導入	CNG車・ハイブリッド車、低燃費かつ低排出ガス車等の環境配慮車両への代替推進を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全事業所	コード (2123) エコドライブ教育の推進	デジタル式運行記録計を活用したエコドライブ教育の推進を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	全事業所	コード (2114) 予防整備の徹底	車両の日常点検により、予防整備を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	全事業所	コード (2125) モーダルシフトの推進	トラック輸送から、鉄道・船舶へのモーダルシフトを、積極的に荷主へセールスし、環境負荷の低減を図る。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
5	レ	GHG排出	全事業所	コード (2112) 車両燃費の把握	各車両毎の燃料使用量・走行距離を集約し、管理を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
6	レ	GHG排出	全事業所	コード (2126)	輸送量に応じた車両を選択する。	2015 年度 ～
	レ	人工排熱				

ウ		輸送の効率化	2017 年度
---	--	--------	---------

(4)その他の抑制対策


## 実績報告書

		東京都品川区東五反田2-18-1 大崎フォレストビルディング		日本トーカンパッケージ株式会社 代表取締役 大出 雅明
届出者	住所		氏名	
特定事業者の主たる業種		14パルプ・紙・紙加工品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ダンボール製品製造・販売		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	3,337 t-CO <sub>2</sub>	2,880 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	3,530 t-CO <sub>2</sub>	3,054 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース) %	%	%	%
		削減率(原単位ベース) %	-0.3 %	7.4 %	8.3 %
削減率(平準化補正ベース)		-	0.1 %	7.4 %	8.1 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 段ボール製品倉入れm <sup>2</sup> )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成26年度(基準年度)のCO<sub>2</sub>排出量:3,309tに対して平成27年度のCO<sub>2</sub>排出量は3,040tとなり、前年実績に対して約8%削減した。</p> <p>平成27年度のCO<sub>2</sub>排出量:3,040tに対して平成28年度のCO<sub>2</sub>排出量は2,886tとなり、前年実績に対して約5%削減となった。</p> <p>平成28年度のCO<sub>2</sub>排出量:2,886tに対して平成29年度のCO<sub>2</sub>排出量は2,880tとなり、前年実績に対して約0.2%削減となった。</p>
<p>電力は製函機の長期間故障が原因で前年実績より悪化。都市ガスはボイラの蒸気配管の整備に前年実績より良化。</p>

(2) 推進体制

環境委員会 1回/1ヶ月の開催
-----------------

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	大阪工場	コード (1121) ドレン回収方法の 改善により燃料 削減	蒸気配管、ドレン回収方法の改善により、ボイラー燃料費の削減  平成29年度継続実施中	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
2	レ GHG排出	大阪工場	コード (1126) 省エネベルトへの交 換による電力削 減	Vベルト交換時にローエッジコグタイプのVベルトを導入し、電力使用量の削減  平成29年度10件交換実施	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
3	レ GHG排出	大阪工場	コード (1218) LED照明への交換 による電力使用 量削減	製造棟照明を蛍光灯・水銀灯からLED化による、電力使用量の削減  平成29年度19台更新	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
4	レ GHG排出	大阪工場	コード (1216) エアコン更新による 電力使用量削減	パッケージエアコンの更新による、電力使用量の削減  平成29年度更新実績なし	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				
5	レ GHG排出	大阪工場	コード (1216) 熱源の外部排出 防止による電力 削減	貼合DFにエンクロージャを設置することで、内部熱源の外部排出防止により夏場のエアコン使用量の低下  平成29年度継続実施予定	2016 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ GHG排出	大阪工場	コード (2121) 低燃費車導入に より環境負荷低 減	リース車等の更新時に低燃費車・低公害車の導入を計画  平成29年度1台更新	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者		住所		大阪市中央区備後町3丁目6番2号 (KFセンタービルディング)		氏名		株式会社 日本ネットワーク 代表取締役 井狩 雅文	
特定事業者の主たる業種				21窯業・土石製品製造業					
該当する特定事業者の要件				レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者				
					大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者				
					大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者				
事業の概要				配電ネットワークの支持物（金属加工品、コンクリート品、がいし製品）を製造しており、大阪府内には本社およびがいし製品を製造する佐野工場がある。またその製造工程の一部の貝塚工場と貝塚工場の敷地内に大阪物流センターの事業所がある。					

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	
2015 年	4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	7,047 t-CO <sub>2</sub>	7,327 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	7,360 t-CO <sub>2</sub>	7,657 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	3.0 %	11.9 %	1.2 %	10.0 %
削減率(平準化補正ベース)		-	12.0 %	1.2 %	10.0 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(生産量)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>平成29年度は生産量が大幅に増え、それに対しトンネル窯のガス量はそれほど増えなかった。これはトンネル窯の特徴(生産量が増加しても燃料使用量はそれほど増加しない)によるものであるが、これ以外に平成29年度はトンネル窯の一部のバーナーの制御の自動化やセメントの養生に使用する波乾養生室の更新による断熱の改善などでガスの使用量が抑えることが出来た。</p>
--

(2) 推進体制

本社および佐野工場では、省エネ・CO2削減に向けて具体的な行動計画を立てて実行している。  
また佐野工場では、エネルギー使用設備の省エネルギー対策を具体的に実行しており、その進捗状況を四半期ごとに確認する体制で進めている。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全体	コード (1112) エネルギーの使用に関するデータ管理	佐野工場・貝塚工場・本社事務所のエネルギー使用に関するデータの集約化	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	全体	コード (1122) 事務所などの冷暖房温度	冷暖房温度を政府推奨する設定温度とする。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全体	コード (1218) 照明の間引き、消灯	事務所や作業場の照明の間引きや退席時の消灯 (年間 2.5 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	全体	コード (1199) 事務機器の運用管理	プリンターの台数管理、コピー機の節電待機 (年間 5 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	佐野工場	コード (1113) 生産計画の遵守	電力量を考慮した生産計画の遵守 (年間 5 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	佐野工場	コード (1113) 高効率ボイラーの優先運転	効率の良いボイラーを出来るだけ運転する。 (年間 5.0 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	佐野工場	コード (1122) 過剰燃焼の防止	生産量に応じた燃焼量の調整によりトンネル窯の過剰の燃焼を防止する。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	佐野工場	コード (1122) 過剰燃焼の防止	品種に見合った焼成曲線により、過剰の燃焼を防止する。 (年間 8 t-CO2削減)	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	本社	コード (1199) 社内照明の間引き	本社内の照明を恒常的に間引きする。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	佐野工場	コード (1125) 一部の波乾養生室の更新	組立ラインの波乾養生室を更新し断熱効果を高め蒸気使用量の低減を図った。	2017 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	佐野工場	コード (1121) 窯の一部のバーナーの自動制御	トンネル窯の一部のバーナーの自動制御を行い燃料の使用の効率化を改善した。	2017 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				



---

(4)その他の抑制対策


## 実績報告書

届出者	住所	東京都中央区京橋一丁目 19番8号 京橋0Mビル	氏名	日本農薬株式会社 代表取締役社長 友井洋介
特定事業者の主たる業種		71学術・開発研究機関		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		農薬・医薬の研究開発の試験等を行っている		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間				
2015年	4月	1日	～	2018年 3月 31日 (3年間)

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	4,040 t-CO <sub>2</sub>	4,028 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,318 t-CO <sub>2</sub>	4,317 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0%	4.7%	4.1%
削減率(平準化補正ベース)		-	4.5%	1.4%	3.8%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 (換算延床面積 )

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

エネルギー原単位(kL/m<sup>2</sup>) = [創薬研究活動エネルギー(kL) / 創薬研究活動指数] / 創薬研究関連床面積(m<sup>2</sup>) + その他の研究活動エネルギー(kL) / その他の研究関連床面積(m<sup>2</sup>)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値(m<sup>2</sup>) = 原油換算量(kL) / エネルギー原単位(kL/m<sup>2</sup>)

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>空調機のコイル洗浄を実施し、ダクトを断熱補強することで熱ロスを軽減した。また、引き続き既設照明器具を電子安定器やLED照明器具に更新した。熱源では気象条件に応じてきめ細やかな制御を実施し、目標を達成することが出来た。</p>
---

(2) 推進体制

環境保全、安全、健康の確保を図る為、最高機関として本社にレスポンシブル・ケア (RC) 推進委員会を設置して、その推進方針の決定と進捗状況の確認、監査結果に基づく評価など全社的なマネージメントを行っています。具体的な推進活動としては、事業所内環境管理委員会にて3ヶ月毎の進捗状況の確認および、現況改善等の検討、省エネや節電に対する説明会等の開催による、従業員への周知徹底を図っていきます。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	総合研究所	コード (1122) 冷却塔充填剤の更新	冷却塔の充填剤を交換し、冷却効率を上げる。	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	総合研究所	コード (1125) 断熱強化	老朽化した配管及びダクトの保温材の補強を行う。	2015 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	総合研究所	コード (1218) 照明器具の更新	老朽化してきた配管及び照明器具は安定器のみ電子安定器に取替え、又ダウンライトは更新してLED照明へと随時交換(年間0.72t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	総合研究所	コード (1113) 空調機運転の改善	外気温度・湿度に応じてきめ細やかな空調機制御と温度管理をする。(年間6.6t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	総合研究所	コード (1113) 設備担当の常駐員化	管理委託業者で、省エネ管理の推進、機器の点検、設備の運転管理などを専門的な立場からきめ細かく運用し、将来の計画についても進める。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	総合研究所	コード (1114) 空調機機器の改善	空調機(エアハンドリングユニット2台、PAC3台)を高効率の物へと更新した。(1.67t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	総合研究所	コード (1125) 変圧器の更新	受変電所の変圧器3台を高効率タイプに取替えた。(0.38t-CO2を削減)	2015 年度 ～ 2016 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ～ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策

--	--	--	--	--	--

# 実績報告書

届出者	住所	大阪府堺市堺区築港南町4番地	氏名	日本ボ <sup>®</sup> パン工業株式会社 代表取締役社長 山本 拓
特定事業者の主たる業種		12木材・木製品製造業（家具を除く）		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		建築現場から排出される家屋解体材・残材及び工場などから排出された木屑を原料とし、製品（パ <sup>®</sup> ティクルボ <sup>®</sup> ）を製造、販売をおこなっている。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
---------	---------------------------------------

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	3,612 t-CO <sub>2</sub>	3,437 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量（平準化補正後）	3,813 t-CO <sub>2</sub>	3,638 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2014 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)	
選択	レ	削減率（排出量ベース）	3.0 %	35.2 %	-0.1 %	4.9 %
		削減率（原単位ベース）	%	%	%	%
削減率（平準化補正ベース）		-	28.0 %	-9.5 %	4.6 %	
吸収量による削減率		%	%	%	%	

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容（目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入）

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>前年度は、順調にボ<sup>®</sup>イ<sup>®</sup>も稼働し発電を行なっていましたが、平成30年1月と3月に合計7日間修理の為にボ<sup>®</sup>イ<sup>®</sup>を停止しなければなりません。その為、発電量が減り受電量が増えてしまい削減率が悪くなってしまいました。3ヵ年で見ると削減目標をクリアすることが出来ました。これは、ボ<sup>®</sup>イ<sup>®</sup>の停止が少なくなり順調に発電できたことによるものです。</p>
--

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 温暖化対策に取り組むため環境マネジメントシステムを活用し電力・燃料などの省エネルギー活動をおこなっていきます。</li> <li>・ 省エネルギー実施基準をもうけ、全社員を対象に省エネルギーの重要性を理解させ、省エネ意識を向上させます。</li> </ul>
--

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	日本ノボパン工業株式会社	コード (1216) 空気調和設備の更新	グリーン購入法に基づき省エネ効果の高い冷暖房設備へと更新していく。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	日本ノボパン工業株式会社	コード (1218) 照明設備の更新	省エネ効果の高い照明設備へと順次更新していく。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	日本ノボパン工業株式会社	コード (1215) 生産ラインの不要機械の見直し	現在の生産ラインを見直し不要機械の撤去・ラインの更新をしていく。 不要機械の配電盤電源を随時切っていく。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	日本ノボパン工業株式会社	コード (1114) エア-漏れ点検、修理	コンプレッサ-エア-を使用している機器のエア-漏れ、配管からの漏れなどが無いか点検し漏れがあった場合修理していく。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
5	レ	GHG排出	日本ノボパン工業株式会社	コード (1113) バイオマス発電設備の運転管理	バイオマス発電設備の運転管理をおこない定期的に発電をおこなう。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
6	レ	GHG排出	日本ノボパン工業株式会社	コード (1215) 集塵機の更新	既設集塵機を更新し、使用電力量及び使用エア-量を削減する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				
7	レ	GHG排出	日本ノボパン工業株式会社	コード (1215) エア-コンプレッサ-の更新	インバータ-搭載機へ更新し、使用電力量を削減する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	日本ノボパン工業株式会社	コード (2121) ハイブリッド車等の低燃費車の導入	社有車更新時に低燃費車を導入していく。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	日本ノボパン工業株式会社	コード (2122) 公共交通機関の利用促進	公共交通機関を出来るだけ利用するようにし、営業車等の使用を控えるようにする。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	日本ノボパン工業株式会社	コード (2123) エコドライブの推進	自社・委託先の車両に対しエコドライブを推進し実施する。	2015 年度 ～ 2018 年度
	レ	人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者		住所		東京都千代田区丸の内1丁目9番1		氏名		日本ビルファンド投資法人 執行役員 影山 美樹	
特定事業者の主たる業種				69不動産賃貸業・管理業					
該当する特定事業者の要件				レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者				
					大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者				
					大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者				
事業の概要				投資法人として、投資主より募集した資金等を、主として不動産ならびに不動産を裏づけとする有価証券及び信託の受益権その他の資産に投資することにより運用を行う。					

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間													
2015年		4月		1日		～		2018年		3月		31日 (3年間)	

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	12,355 t-CO <sub>2</sub>	11,268 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	14,766 t-CO <sub>2</sub>	13,008 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0%	0.4%	8.3%
削減率(平準化補正ベース)		-	0.8%	7.1%	11.4%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値(床面積)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

各ビルごとに延床面積×年度平均入居率を算出し原単位面積として合計している。第3年度(H29年度)における各ビル原単位面積は以下のとおり。アクア堂島NBFタワー34,730㎡、堺筋本町センタービル32,590㎡、中之島セントラルタワー28,695㎡、サンマリオンNBFタワー24,329㎡、信濃橋三井ビルディング35,499㎡。なお、中之島セントラルタワーは共有持分0.4分を、信濃橋三井ビルディングは共有部分0.99分を算入している。

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>基準年度における温室効果ガス総排出量12,355tを基準年度の原単位面積の156,846㎡で除した値である0.0788を基準年度の原単位Aとし、第3年度との比較を行った。                  第3年度の温室効果ガス総排出量は11,268tであり、これを第3年度の原単位面積の155,845㎡で除すると0.0723となり、これを第3年度の原単位Bとする。                  (A-B)/A×100%で計算した結果、第1年度の削減率は8.3%となった。</p>
<p>平成29年度については、引き続き館内各機器の停止・運転調整を行った。また、テナント各社の節電・省エネ意識の高まりによる協力もあり、温室効果ガス排出量削減につながった。</p>

(2) 推進体制

<p>当法人としては、運営委託会社及び管理委託会社との連携を図り、各ビルごとの月1回の確認会議においてエネルギーの使用状況の把握と計画の確実な実施の進捗確認を行う。また、今後においても各機器の更新時期にあわせ省エネ機器への更新の検討を継続して実施していく。</p>
<p>節電要請に基づき、空調温度設定の調整・照明の間引き点灯・各機器の運転停止等に取り組む。また、テナントに対しても室内空調設定温度の調整等の節電対策への協力を要請していく。</p>

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	アクア堂島 NBFタワー	コード (1216) 熱源機器更新	老朽化に伴う効率化の改善および省エネタイプへの更新 ・モジュールチラー ・冷温水発生機 ・冷媒	2014 年度 ～ 2016 年度
		人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	アクア堂島 NBFタワー	コード (1216) 空調設備更新	老朽化に伴う効率化の改善 ・全熱交換機 ・空調機 (AHU) ・ファンコイル	2014 年度 ～ 2016 年度
		人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	堺筋本町センタービル	コード (5112) 省エネ機器への更新	各共用部トイレの照明を製造中止機器より順次LED化	2014 年度 ～ 2016 年度
		人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	堺筋本町センタービル	コード (1114) メンテナンス実施	ガス吸収式冷温水発生機のメーカー整備点検実施：各部品の交換、冷却水系内部洗浄を実施	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	堺筋本町センタービル	コード (1113) 運用設定変更	各階給湯器の設定温度及びスケジュールの見直し再設定：テナントの運用状況を考慮し温度設定99℃→95℃に変更	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	堺筋本町センタービル	コード (1113) 運用設定変更	電気室管理温度の見直し及びパッケージ空調機の運用見直し：上限31.5℃程度目標に夏季常時パッケージ2台運転から1台運転に変更	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	堺筋本町センタービル	コード (1216) 熱源機器更新	2F貸室用チラーの更新を実施：竣工20年以上設置経過の設備を更新	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	堺筋本町センタービル	コード (1216) 空調機更新	1F及びB1F管理スタッフ控室のエアコン更新を実施：旧式冷媒機器を最新の機器に更新	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	堺筋本町センタービル	コード (1216) メンテナンス実施	各階ターミナル空調機の中性能フィルター交換を実施	2015 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	堺筋本町センタービル	コード (1216) 運用設定変更	1Fホール空調の夏季以外停止実施：冬季の暖房運転を中止	2014 年度 ～ 2015 年度
		人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	中之島セントラルタワー	コード (1113) 熱源機器の運転変更	吸収式冷温水発生機の運転制御を郡発停制御から手動運転に切替	2014 年度 ～ 2016 年度
		人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	中之島セントラルタワー	コード (1113) 熱源機器の運転変更	スクリー冷却機の運転制御を郡発停制御から手動運転に切替	2014 年度 ～ 2016 年度
		人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	サンマリオンNBFタワー	コード (1113) 空調機器設定変更	冷水温度設定変更 (夏季9.5℃、中間期・夏季夜間12℃)	2012 年度 ～ 2016 年度
		人工排熱				
		平準化				

14	レ	GHG排出	サンマリオンNBFタワー	コード (1218) 無駄な照明点灯の削減	トイレ照明への人感センサーの採用	2013年度 ～ 2016年度
		人工排熱				
		平準化				
15	レ	GHG排出	サンマリオンNBFタワー	コード (1218) 無駄な照明点灯の削減	1階・地階共用部照明間引き点灯	2012年度 ～ 2016年度
		人工排熱				
		平準化				
16	レ	GHG排出	サンマリオンNBFタワー	コード (1218) 省エネ機器への更新	地下1階駐車場入出庫スペース及び荷捌き場ダウンライトのLED化	2013年度 ～ 2016年度
		人工排熱				
		平準化				
17	レ	GHG排出	信濃橋三井	コード (1114) メンテナンス実施	過日1階南西系統の空調ドレン管の詰まりが原因で漏水事故が発生したため、他の4系統について空調機の洗浄作業および掃除口設置工事を実施する。	2015年度 ～ 2017年度
		人工排熱				
		平準化				
18	レ	GHG排出	信濃橋三井	コード (1114) メンテナンス実施	屋上設置の吸収式冷温水発生機 (R-4) および地下2階設置の吸収式冷温水発生機 (R-5) の冷却水系統ストレーナーを冷却効率維持のため清掃を実施する。	2015年度 ～ 2017年度
		人工排熱				
		平準化				
19	レ	GHG排出	信濃橋三井	コード (1114) メンテナンス実施	排気ファンのベアリング交換	2015年度 ～ 2017年度
		人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				

(4)その他の抑制対策




# 実績報告書

届出者	住所	大阪府大阪市中央区大手前4丁目 1番20号	氏名	日本放送協会 大阪放送局 局長 角 英夫
特定事業者の主たる業種		38放送業		
該当する特定事業者の要件		レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		大正14年2月28日、社団法人大阪放送局設立。同年6月1日ラジオ仮放送を開始。昭和29年にはテレビ放送、平成15年には地上デジタル放送を開始した。平成13年11月3日に現会館に移転。TV基幹局1局、ラジオ基幹局2局、FM基幹局1局、TV中継所13箇所等を備え、平成30年6月8日現在、府下営業センター等を含め624名の職員が在籍している。「ニュースほっと関西」他、多種多様な番組を放送、視聴者ニーズにこたえと共に緊急報道に万全を期している。		

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)
---------	---------------------------------

### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	15,768 t-CO <sub>2</sub>	14,019 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	17,476 t-CO <sub>2</sub>	15,480 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	削減率 (排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率 (原単位ベース)	3.0 %	-0.4 %	10.4 %	17.9 %
削減率 (平準化補正ベース)		-	-0.1 %	10.8 %	18.2 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 放送に関する設備の有形固定資産 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

## ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

省エネ法の届出にも使用している放送設備関係の数値 (有形固定資産額) をもとに原単位方式を採用して毎年1%3年間で3%排出量の削減を目指している。 平成29年度は原単位の分子となるエネルギー使用量が減少し、平成27年度実施の旧放送機器撤去に代わる放送機器の新設により、分母が増大した。また、28年度から基準年度と異なる買電事業者への変更により排出係数も減少した。 結果、原単位は17.9%の減(平準化補正ベース18.2%減)となった。
---

(2) 推進体制

・同一敷地内にある大阪歴史博物館（大阪市）と毎月運用に関する会議を開催し、設備及びエネルギーに関することも討議検討し、情報の共有化をはかると共に省エネルギー対策もより推進できる体制を構築していきます。今後も共有設備の更新等がある為、博物館協会・大阪市を含め定期的に協議を行っておりますが今後も継続的に行います。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全事業所	コード (1114) 運転時間管理による設備整備	空調、熱源設備の運転時間を把握し、適切な部品交換及びオーバーホール実施により設備劣化によるエネルギー消費を防止する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	大阪放送局	コード (1113) 放送系空調の運用方法	放送用スタジオ等の使用 (リソース) 情報を共有して未使用時の空調停止の徹底による削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	全有人事業所	コード (1113) 事務系空調の運用方法	省エネ設定温度の徹底、未使用時の運転停止の励行による空調、熱源エネルギーの削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	大阪放送局	コード (1111) エネルギー使用状況の共有化	毎月、大阪歴史博物館、大阪市と共にビル会議を開催し、エネルギーの使用状況、省エネ施策について検討を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	大阪放送局	コード (1111) 老朽設備更新の検討会開催	大阪歴史博物館、大阪市と共に老朽設備の更新に向け、協議を行う場を年4回は行う。(設備更新にて無駄なエネルギー消費を防止する)	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
6	レ	GHG排出	全事業所	コード (1218) 事務系照明のLED化	前回に引き続き、廊下、事務所等の照明のLED化を推進して照明の消費エネルギーを削減する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
7	レ	GHG排出	大阪放送局	コード (1218) 放送用調光照明のLED化	ニューススタジオ (NC-A・NC-B) の放送用調光照明をLED化してエネルギー消費を削減する。	2015 年度 ～ 2015 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
8	レ	GHG排出	全事業所	コード (5112) 不要照明の間引き	窓際、壁際等不要な照明を間引くことによりエネルギーを削減する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
9	レ	GHG排出	大阪放送局	コード (5121) 蓄熱の放熱時間帯操作	夜間蓄熱 (氷蓄熱、水蓄熱) の放熱時間帯を負荷の要求に合わせて時間帯をずらすことによりピークカットを行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
10	レ	GHG排出	大阪放送局	コード (1216) パッケージ空調機の更新	経年劣化したパッケージ空調機を更新することによるエネルギー削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
11	レ	GHG排出	大阪放送局	コード (1212) 蒸気貫流ボイラーの更新	経年劣化した蒸気貫流ボイラー設備 (空調用温水、貯湯槽、蒸気発生器に利用) を順次設備更新を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
12	レ	GHG排出	大阪放送局	コード (1124) 空調ファン、ポンプ用インバータ更新	経年劣化した空調用給気ファン、還気ファン、熱源ポンプ用インバータを更新する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
13	レ	GHG排出	大阪放送局	コード (5115) 電気温水器等停止によるピークカット	夏季、冬季電気温水器の一部停止、手洗いの電気温水器全面停止、暖房便座の停止。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
	レ	GHG排出		コード (1199)	2アップ 3ダウン運動の継続的展開。	2015 年度

14	レ	人工排熱	大阪放送局	昇降機運転削減		～ 2017 年度
		平準化				
15	レ	GHG排出	全事業所	コード (1215) OA機器、事務機器省エネ設備導入	OA機器、事務機器を導入する場合は省エネタイプを導入する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	全車両保有事業所	コード (2123) アイドリング停止	車両使用時にアイドリングストップを励行。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
2	レ	GHG排出	全車両保有事業所	コード (2122) 公共交通機関利用促進	出来る限り公共交通機関を利用する様、全職員周知。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
3	レ	GHG排出	大阪放送局	コード (2126) 使用車両台数の削減	ロケ時、人数を考慮してマイクロバスを利用する等、使用台数を削減。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
4	レ	GHG排出	全車両保有事業所	コード (2112) 使用燃料の管理	車両ごとの使用燃料、走行距離を管理し無駄が無いかチェックする。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				

(4)その他の抑制対策

<p>職員はもちろんグループ会社の職員へも省エネ広報活動の徹底。コピー用紙削減のための両面コピーの励行、裏面コピー実施してコピー用紙使用量の削減、グリーン調達の実施。不必要時のパソコン、TV、モニター、照明の電源OFF、省エネ設定の徹底を実施し、特に事務系電気使用量の削減に取り組んでおります。</p>

## 実績報告書

届出者	住所	東京都港区西新橋一丁目16番2	氏名	日本郵便輸送株式会社 代表取締役社長 勝野 成治
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		郵便物及び郵便事業に関連する物品の運送事業。 全国90カ所のうち大阪府下では5カ所にて事業活動を行っております。		

### ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間	2015年 4月 1日～ 2018年 3月 31日 (3年間)
---------	---------------------------------

#### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	4,849 t-CO <sub>2</sub>	4,207 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,856 t-CO <sub>2</sub>	4,250 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

#### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	レ 削減率(排出量ベース)	3.4%	7.9%	13.4%	13.3%
	削減率(原単位ベース)	%	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	7.2%	12.6%	12.5%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

### ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

#### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<p>温室効果ガスの総排出量における目標達成率について、2017年度の結果より0.1%下回ったが13.3%という結果となった。その要因として、デジタルタコグラフを活用したエコドライブを実践したことによる効果と無駄な回送便の削減や便の見直し、そして新車導入を行った結果、CO<sub>2</sub>排出量を削減することに繋がった。</p>
--

(2) 推進体制

郵便物運送業務を全国ネットで展開し、多くの業務用車両を日夜運行していることから、事業活動に伴う環境負荷を極力小さくするため、運行におけるハード・ソフト両面からの効率化に取組み、環境保全・省エネを推進するため、本社及び支社における責任体制を確立し、諸施策を計画実施します。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	人工排熱				
	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	GHG排出	全ての事業所	コード (2123) エコドライブ教育	年2回の運転士社員教育講習時にエコドライブの必要性・普及推進を行っています。推進運動により、年々、ガソリンの燃費向上につなげてきているので、今後も継続していく。	2015 年度 ～ 2018 年度
	人工排熱				
2	GHG排出	全ての事業所	コード (2112) 使用燃料及び適正な運行状況の管理	デジタル式運行記録計を活用し、運転士別・車両別のエネルギー使用の管理を行います。また運行時間・経路・法令遵守状況についても合わせて検証します。	2015 年度 ～ 2018 年度
	人工排熱				
3	GHG排出	全ての事業所	コード (2121) 環境負荷低減車両の導入促進		2015 年度 ～ 2018 年度
	人工排熱				
4	GHG排出	全ての事業所	コード (2127) 輸送効率化	荷主との情報交換を密にし、実車率及び積載率の向上に努めるとともに最適車両の配車に取り組んでいます。	2015 年度 ～ 2018 年度
	人工排熱				

(4) その他の抑制対策

19年度より継続的に実施している「もったいない運動」を各事業所において周知、徹底し、エネルギー資源の節減に努めています。各事業所にて様々な取り組みを行っている中で、具体的な例をいくつか示します。

1. 輸送業務の運営基点となる各事業においてエネルギー資源の節減を目的とする「もったいない運動」を19年度より継続実施中。  
 も：最寄の階には階段を利用しましょう。(当社施設以外でも実施する。)  
 つ：つけた電気はこまめに消そう。  
 た：大切に用紙を使おう(コピー・印刷機の使い分け、裏面の利用)  
 い：いなくなる時のOA機器は電源を切ろう。  
 な：夏場の冷房は26℃に設定にしよう。  
 い：いつも環境・省エネを念頭に行動しよう(暖房・洗車時の無駄使いの節減する)

2. その他  
 ①使用済み車両資材及び定期点検等で生じた廃棄物等の適正処理やリサイクルに努めます。  
 ②事務用品等の購入にあたっては、「エコマーク」製品などのグリーン調達を推進します。  
 ③事業所でのゴミの発生量を極力抑える等、事業所内の一般廃棄物の抑制・管理に努めます。  
 (1、2の施策により年間4,685 t-CO<sub>2</sub>の削減)

# 実績報告書

届出者	住所	大阪府東大阪市稲田新町3-11-32	氏名	日本ルツボ株式会社 工場長 岡 信幸
特定事業者の主たる業種		21窯業・土石製品製造業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		主に鑄造用坩堝を製造しており、全国で3店舗出店し大阪府内では1店舗の出店を行っている		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	4,064 t-CO <sub>2</sub>	3,806 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,278 t-CO <sub>2</sub>	3,978 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	%	%	%
		削減率(原単位ベース)	3.0 %	-4.9 %	-13.6 %
削減率(平準化補正ベース)		-	%	-4.5 %	-12.6 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(売上高)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

28年度の売上高と比べ1.05億円プラスになったものの短納期製品の対応などでシャトル炉の使用が増えたことによりガスの使用量が多くなったため。
--

(2) 推進体制

工場長を本部長とする地球温暖化対策推進本部を設置し毎月対策の推進状況を報告し、現状改善などを検討している。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1112) デマント監視メーターを利用し電力管理の実施 設備毎のエネルギー 使用量把握		2018 年度 ～ 2021 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
2	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 照明設備		2018 年度 ～ 2020 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
3	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1218) 照明設備		2018 年度 ～ 2021 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				
4	レ	GHG排出	大阪工場	コード (1113) 照明管理		2018 年度 ～ 2021 年度
		人工排熱				
	レ	平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	大阪支店	コード (2123) エコドライブ推進	営業用車両のエコドライブ実施と公共交通機関利用促進	2018 年度 ～ 2021 年度
		人工排熱				
2	レ	GHG排出	大阪支店	コード (2121) エコカー導入	リース満期時交換の際低燃費車両を計画	2018 年度 ～ 2021 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	東京都江東区冬木14番5号	氏名	株式会社ニヤクコーポレーション 代表取締役 堀江 浩太
特定事業者の主たる業種		44道路貨物運送業		
該当する特定事業者の要件		大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者 レ 大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		石油をはじめ、高圧ガス、ケミカル、産業廃棄物および海上コンテナ等の貨物自動車運送、石油元売会社の油槽所管理・運営、JR各社が使用する石油類に関する諸作業を主たる事業とし、その他これらに付帯する事業を営んでおります。 大阪府内では高石市に所在しています。		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1) 計画期間	2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)
----------	---------------------------------------

(2) 前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	5,025 t-CO <sub>2</sub>	4,439 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	5,039 t-CO <sub>2</sub>	4,451 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3) 温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	0.5 %	-0.4 %	3.4 %	3.7 %
削減率(平準化補正ベース)		-	-0.4 %	3.4 %	3.8 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	(大阪府内事業所の売上金額)
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	
大型ディーゼル車にて燃費改善による燃料使用量自体の削減に過去より取組んでおります。引き続き、温室効果ガス目標削減率として「原単位ベース」を選択し、売上金額を母数として設定致します。	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

大型ディーゼル車の燃費改善による燃料使用量自体の削減に取り組んでおります。
---------------------------------------



(2) 推進体制

大型CNGトラックを2016年に導入し、温室効果ガスの排出量抑制に努めています。  
 また従前通り、車庫単位の対予算燃費改善率を競う全社燃費コンクールを開催し、燃費改善活動を継続しております。  
 毎期ポスターを作成し、乗務員へコンクールの内容を周知するとともに、全車庫の実績を月次で公表し、継続して燃費改善がなされるよう取組んでおります。 また成績優秀車庫は表彰式に招待する表彰制度も設けております。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺事業所	コード (1111) 省エネルギーに関する教育	事務所内にて省エネ運転に関する教育を深め、温室効果ガス排出量の削減を図ります。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG)の排出及び人工排熱の区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ	GHG排出	堺事業所	コード (2114) 車両整備の充実	日常点検、法定定期点検の充実により、車両整備不良によるCO2排出量の増大を抑制します。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
2	レ	GHG排出	堺事業所	コード (2123) 社内燃費コンクールの実施	全車両事業所を対象とした燃費コンクールを開催し、燃費改善による燃料使用量の抑制を図ります。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
3	レ	GHG排出	堺事業所	コード (2126) 車両の大型化推進	車両大型化により、輸送効率の向上を図ります。	2015 年度 ～ 2017 年度
		人工排熱				
4	レ	GHG排出	堺事業所	コード (2199) 大型CNGトラックの導入	大型CNGトラックを導入し、CO2排出量の抑制を図ります。	2016 年度 ～ 2016 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

届出者	住所	大阪市中央区城見1丁目4番1号	氏名	(株) ニュー・オータニ 代表取締役 社長 大谷 和彦
特定事業者の主たる業種		75宿泊業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者	
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者	
事業の概要		ホテル		

◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間
2015 年 4 月 1 日～ 2018 年 3 月 31 日 (3年間)

(2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	9,835 t-CO <sub>2</sub>	9,646 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	10,798 t-CO <sub>2</sub>	10,595 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

(3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017 年度)	第1年度 (2015 年度)	第2年度 (2016 年度)	第3年度 (2017 年度)
選択	レ	削減率(排出量ベース)	3.0 %	1.1 %	1.4 %
		削減率(原単位ベース)	%	%	%
削減率(平準化補正ベース)		-	1.0 %	1.4 %	1.9 %
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

H29年度はホテル稼働増加により温室効果ガスの削減目標である3%を下回った結果になった。
--

(2) 推進体制

CRTにて冷水温度の管理をして空調用冷水ポンプ、スクリーユ冷凍機、ターボ冷凍機、吸収式冷凍機は全て自動運転はせず負荷に応じて手動で運転を行い冷凍機の使い分け又は運転停止を強制的に実施する。

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1	レ	GHG排出	ホテルニュー オータニ大阪	コード (1211) 熱源機器運転管 理	負荷の変動に応じて高効率型のターボ冷凍機と 排熱回収装置を持ったスクリーユ冷凍機の運転 コントロールを随時行う。 ⇒H29年度 継続実施中	2015 年度 ~ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
2	レ	GHG排出	ホテルニュー オータニ大阪	コード (1211) 熱源機器運転管 理	外気温に応じて冷温水発生器の運転コントロ ールを随時行う。 ⇒H29年度 継続実施中	2015 年度 ~ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
3	レ	GHG排出	ホテルニュー オータニ大阪	コード (1114) 自動制御機器更 新	自動制御機器の不具合箇所を更新し最適化を図 る。 ⇒H29年度 継続実施中	2015 年度 ~ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
4	レ	GHG排出	ホテルニュー オータニ大阪	コード (1218) LED電球の使 用	白熱電球をLED電球へ取替。 ⇒H29年度 継続実施中	2015 年度 ~ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				
5	レ	GHG排出	ホテルニュー オータニ大阪	コード (1218) 安定器の取替	蛍光灯安定器をインバーター式に取替。 ⇒H29年度 継続実施中	2015 年度 ~ 2018 年度
	レ	人工排熱				
		平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出 及び人工排熱の 区分		事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケ ジュール (年度)
1		GHG排出		コード		年度 ~ 年度
		人工排熱				

(4) その他の抑制対策


# 実績報告書

	届出者	住所	大阪府吹田市千里万博公園10-1	氏名	大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 機構長 平川 南
特定事業者の主たる業種			82その他の教育, 学習支援業		
該当する特定事業者の要件		レ	大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者		
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者		
			大阪府温暖化の防止等に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者		
事業の概要		文化人類学およびその関連分野の調査、研究、教育を行うとともに、世界の諸民族の文化、社会、歴史に関する学術資料の収集、保存、展示、活用を行う博物館機能を有する大学共同利用機関			

## ◎ 温室効果ガスの削減目標の達成状況

(1)計画期間					
2015年	4月	1日	～	2018年	3月31日 (3年間)

### (2)前年度における温室効果ガス総排出量

区分	基準年度( 2014 )年度	前年度( 2017 )年度
温室効果ガス総排出量	3,566 t-CO <sub>2</sub>	3,305 t-CO <sub>2</sub>
温室効果ガス総排出量(平準化補正後)	4,029 t-CO <sub>2</sub>	3,686 t-CO <sub>2</sub>
植林、緑化、森の保全による二酸化炭素の吸収量		0 t-CO <sub>2</sub>

### (3)温室効果ガスの削減目標の達成状況

区分		削減目標 (2017年度)	第1年度 (2015年度)	第2年度 (2016年度)	第3年度 (2017年度)
選択	削減率(排出量ベース)	%	%	%	%
	レ 削減率(原単位ベース)	3.0%	6.7%	5.3%	7.4%
削減率(平準化補正ベース)		-	7.6%	7.4%	8.6%
吸収量による削減率		%	%	%	%

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容(目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値	( 延べ床面積 )
(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)	

## ◎ 事業活動に係る温室効果ガス排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

### (1)温室効果ガスの削減状況についての見解(計画の最終年度に目標が達成できなかった場合、その理由)

<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏季並びに冬季における省エネルギーの取り組みについて館内通知し、教職員へ一層の意識啓発をした。</li> <li>・デマンド管理の徹底により節電目標を達成した。</li> <li>・書庫、セミナー室及び廊下等の一般照明器具を、LED型に更新した。</li> </ul>
--

(2) 推進体制

<ul style="list-style-type: none"> <li>各研究部長と副館長等から構成する施設マネジメント委員会で、毎月のエネルギー使用状況を報告し、現状改善等を協議する。</li> <li>館内利用者にて省エネ・CO2削減に向けて協力を依頼し、無駄なエネルギー消費を抑制する。</li> <li>月単位等でエネルギー管理を実施し、過去の実績と比較したエネルギーの消費動向等を把握する。そのデータを基に今後の対策を検討し、さらに一層の削減に向け取り組んでいく。</li> </ul>
---

(3) 温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化のための対策の実施状況

1. 産業・業務分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出	すべての事業所	コード (1111) CO2削減に向けたエコ活動の推進	館内利用者にて省エネ・CO2削減に向けて、協力を依頼し、無駄なエネルギーを削減する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
2	レ GHG排出	すべての事業所	コード (1112) エネルギーのデータ管理	月単位等でエネルギー管理を実施し、過去の実績と比較したエネルギーの消費動向等を把握する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
3	レ GHG排出	すべての事業所	コード (1113) 高効率の運転管理	節エネルギー・省エネルギーに向けた施設の維持管理に努め、負荷状況に応じた高効率の運転が維持できるよう運転管理を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
4	レ GHG排出	すべての事業所	コード (1114) 空調設備の保守・点検	熱交換器のスケールの除去、フィルターが目詰りの清掃、熱媒体の漏洩部分の補修など、設備を良好な状態に維持する。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				
5	レ GHG排出	すべての事業所	コード (1218) 高効率照明機器の導入	HF蛍光ランプ、LEDランプなど省エネルギー型機器を採用する。 トイレや廊下照明に人感センサーを採用し、無駄な点灯を減らす対策を行う。	2015 年度 ～ 2017 年度
	レ 人工排熱				
	レ 平準化				

2. 自動車分野

No.	温室効果ガス (GHG) の排出及び人工排熱の区分	事業所名	対策項目	対策の内容	実施スケジュール (年度)
1	レ GHG排出		コード		年度 ～ 年度
	レ 人工排熱				

(4) その他の抑制対策
